

第3回盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略 アドバイザーボード

戦略立案に向けた協議資料

2023年2月21日

目次

1. 第2回（または第1回）説明内容から素案への主な変更内容	… … P2
2. 今後のスケジュール	… … P13

1. 第2回（または第1回）説明内容から素案への主な変更内容

戦略の位置づけ

第1回：説明



- 「総合計画」に基づき、「行政デジタル・トランスフォーメーション推進計画」と並列の関係にある戦略として位置付け

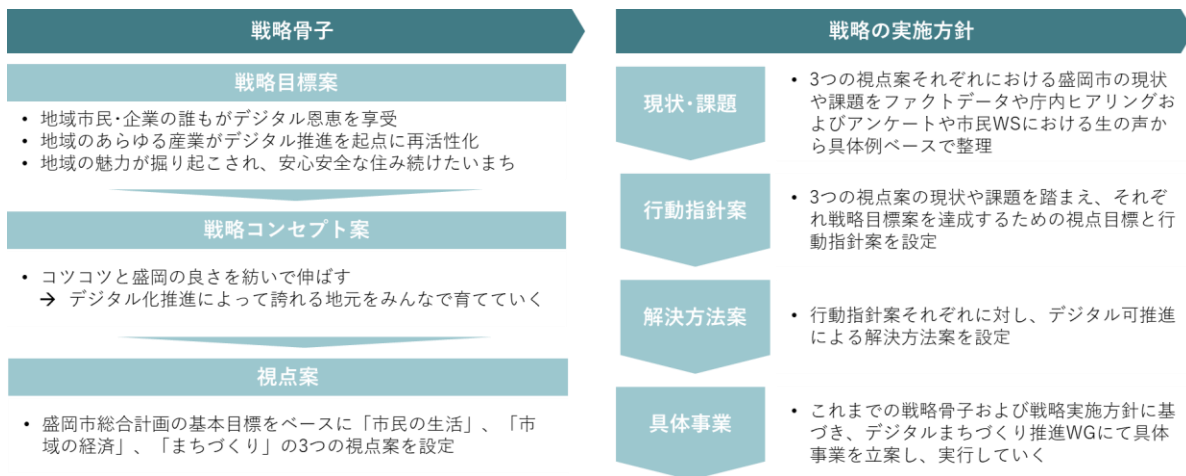
素案（P4）



- 「総合計画」に基づき、「行政デジタル・トランスフォーメーション推進計画」と「IT産業振興戦略」と一部、範囲を重複しつつも連携しながら市全体としてデジタル推進を進めていく位置づけ

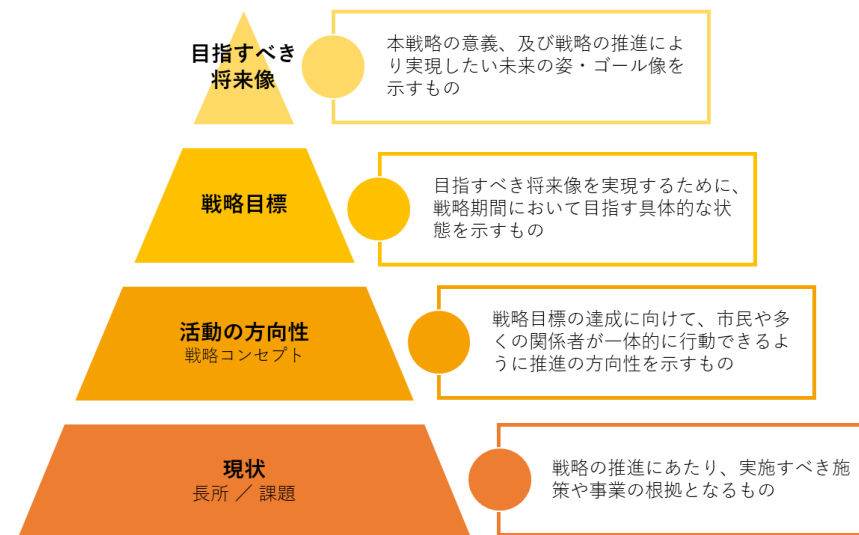
全体像

第2回：説明



- 大きく“戦略骨子”と“戦略の実施方針”に分けて体系的に取りまとめ
- 戦略骨子内にて、「戦略目標」→「戦略コンセプト」→「視点」と整理
- 戦略の実施方針として、「現状・課題」→「行動指針」→「解決方法」→「具体事業」

素案（P7）



- 全体像を1つにまとめ、「目指すべき理想像」→「戦略目標」→「活動の方向性（戦略コンセプト）」→「現状（長所／課題）」と整理
- 「活動の方向性」にて、具体的な「取組方針」と「活動目標」を記載

目指すべき理想像と戦略目標

第1回：説明

目指すべき理想像			
過去と未来の“盛岡らしさ”を支えるデジタル推進			
	① 市民の生活	② 地域の経済	③ まちづくり・文化
R9までの到達目標	・ 市民一人ひとりにデジタル化による恩恵が広く行き渡り、よりよい“盛岡らしい”暮らしが実現されている	・ 盛岡にある資源・資産が活用され、地域で育んできた“盛岡らしさ”を残したまま、新たな技術・知見を活用し、デジタルの力で地域経済の成長・発展が実現されている	・ デジタル化を通じて盛岡が抱える課題を解決し、今ある文化を守りながら、新たな“盛岡らしさ”を創造して持続可能な社会が実現されている
具体的な行動指針	① すべての市民が参加できるやさしいデジタル社会を目指す ② デジタル化の恩恵を市民生活に広く行き渡らせ、年代を問わずみんなが住みたい・住み続けたいと思われるまちを目指す ③ ライフステージに合わせた暮らしの環境を充実させ、安全安心で便利なまちを目指す	① ICT等の先端技術を活用して地域の資源・資産が活用されるまちを目指す ② 地元企業のデジタル化を推進し、地域の労働力不足の解決および生産性向上を実現し、企業の持続・発展を目指す ③ デジタル実装を通して県内外から人や技術・知見を呼びこみ、地域経済の成長・発展を目指す	① 歴史的町並みや文化など、盛岡らしさを活かしながら、持続的かつ革新的な地域の成長・発展を目指す ② デジタル活用による効果的・効率的な都市機能（防災・インフラ関連等）の強化を目指す ③ 地域の魅力をデジタルの力で発信することで市内外の多くの人がつながるまちを目指す

- ・ 目指すべき理想像を「過去と未来の“盛岡らしさ”を支えるデジタル推進」
- ・ R9までの到達目標として、3つの視点にてそれぞれ整理

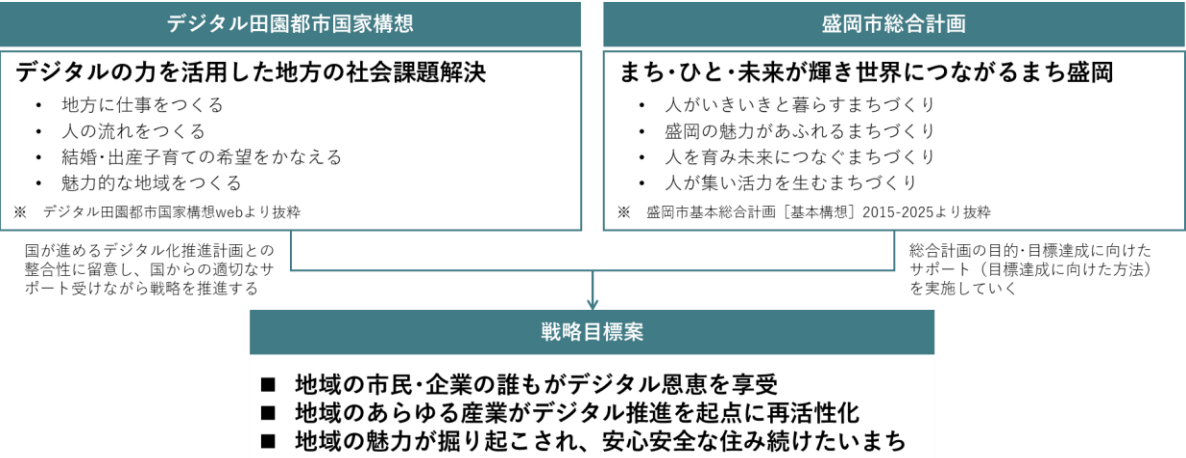
素案（P8）



- ・ 目指すべき理想像を実現するための戦略目標として、総合計画の4つの基本目標との関係を踏まえ、3つの視点から目標を設定

目指すべき理想像と戦略目標

第2回：説明



- ・ 上位概念となる“デジタル田園都市国家構想”および“盛岡市総合計画”との関係より、本戦略における戦略目標案を「地域の市民・企業の誰もがデジタル恩恵を享受」、「地域のあらゆる産業がデジタル推進を起点に再活性化」、「地域の魅力が掘り起こされ、安心安全な住み続けたいまち」に仮設定

素案（P9～10）

- ・ 戦略目標を総合計画の4つの基本目標との関係を踏まえ、3つの視点にて整理
- ・ 視点単位にて、戦略の推進状況を確認するためのKPIを設定（なお、KPIの数値目標については現在検討中）

戦略コンセプト

第2回：説明

② 戦略コンセプト案



デジタル化推進によって誇れる地元をみんなで育てていく

コツコツと盛岡の良さを紡いで伸ばす

盛岡には、歴史・文化・自然や人情といった過去、脈々と培ってきた誇れる豊かな地域資源がある。そんな、地元（盛岡）にこれからもずっと住み続けていきたい。「人情的」、「真面目」、「コツコツ」といった盛岡に住まう人々の気質にあわせて、一見、難しそうなデジタル化推進も謙虚にコツコツ自分たちで協力し合いながら1つずつ成功させていく。

- 国内事情や地域の特性を踏まえ、戦略コンセプトとして「コツコツと盛岡の良さを紡いで伸ばす」と設定

素案（P10）

- “コツコツ”の表現が一部、誤解を招く可能性があるとの指摘および“デジタル”の戦略であることをより分かりやすくするため、戦略コンセプトを「デジタルの力で盛岡の良さを紡いで伸ばす ～誇れる地元をみんなで積み重ねて育てていく～」と再設定

現状（長所／課題）

第1回：説明

分類	主な現状（課題点）	現状のファクト（データ）
まち	a. 中心市街地の魅力や求心力が低下 b. 地価や賃貸相場が比較的高い傾向にある c. 小中学生の学力（特に思考力）が低い	✓ 郊外に対する年間小売販売額の割合が継続して減少 ✓ 賃料は東北6県の県庁所在地で最も高い ✓ 全国平均と比べて国数の思考力が低い（特に数学は全ての項目で全国平均以下）
ひと	d. 若者層の市外転出が多い e. 婚姻数・出生数ともに減少が続く f. 一人あたりの所得が低い（低賃金）	✓ 20～24歳（学生層）が大幅に転出超過となっている ✓ 特に出生数は、5年で10%も低下している ✓ 全国平均から約60万円/年も低い（同規模の水戸市と比べて約95万円/年も低い）
しごと	g. h. i.	盛岡がもつ“文化”や“自然”といった資源を活かして 持続可能な“経済”と“社会”を発展させていくことが重要 ✓ 城下町（盛岡城・町家・街並み） ✓ 豊かな自然（河川・山・公園） ✓ 歴史・文化（文化人・工芸品） ✓ 観光（飲食・祭り） ✓ スポーツ（プロスポーツ） ✓ 交通（鉄道・高速道路・空港） ✓ 安全（少ない事故数・地震に強い）

- 盛岡市が抱える課題と長所を公表資料ベースで整理

素案（P12～14）

現状	No.	内容	活動の方向性
長所	1	コンパクトで住みやすい・過ごしやすい	④
	2	教育や医療分野等の中枢機能を有する	
	3	保育所待機児童数0の達成	
課題	4	デジタルリテラシーによる情報格差	⑤
	5	市民一人ひとりがより豊かな人生を営める推進が必要	
	6	公共空間での通信環境のさらなる整備	
	7	通信環境やデジタル機器配備等の整備	
	8	買い物等におけるキャッシュレス化	
	9	町内会や民生委員等の地域の担い手の維持が困難になっている	
	10	地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉	
	11	健康づくり・医療環境の拡充が必要	
	12	出会いや結婚の支援、出産・子育て支援	
	13	子育て・教育の支援、夫婦協働育児の推進が必要	
	14	海外・東京圏に対する情報発信が十分でない	
	15	労働生産性が低い傾向にある	
	16	デジタル化推進や導入時の資金援助	

- 「盛岡市総合計画」や「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のほか、市民ワークショップや市民アンケートの結果を踏まえ、本市の現状を整理

デジタル化推進に向けた取組方針

第2回：説明

市民の生活	行動指針案	(デジタルを活用した) 解決方法案
地域の経済	• やさしいデジタル化を目指す • 生活に根差したデジタル化を目指す • 生涯にわたって便利なまちを目指す	✓ 市民ニーズが大きい、または恩恵を享受できる市民の数が多い分野の事業を実施 ✓ デジタル格差を解消するため、デジタル端末の配布や利用方法の講座開催等を実施
まちづくり	• 地域資源を活かした経済発展を目指す • 地元企業の持続・発展を目指す • 人・技術・知見が集まるまちを目指す	✓ 地元企業の足もとの経営課題（労働生産性や人材不足等）をデジタル活用により解消 ✓ 市内外から集まる高いデジタル関連スキルを持った企業・人材と協業し、伝統産業/新規産業問わずに高付加価値サービス・産業を創出
	• 持続的かつ革新的な地域の発展を目指す • 安定したインフラ環境の提供を目指す • 市内外の多くの人がつながるまちを目指す	✓ 市民生活の利便性を高めるため、都市インフラを強化 ✓ 盛岡の文化・歴史的価値を高める事業を実施 ✓ 市内外に向けた魅力発信と関係人口のコミュニティ形成を実施

- 3つの視点の行動指針に対してデジタルを活用した解決方法案を整理

素案（P12～14）

- 各活動の方向性に対するデジタル化の推進に関する取組方針、および活動目標を設定
- 主な取組は、庁内ヒアリングや庁内照会結果も踏まえ、実施中の事業を含めて記載

2. 今後のスケジュール

今後のスケジュール

公表までに必要な 会議／事項	1月					2月				3月				4月			
	W1	W2	W3	W4	W5	W6	W7	W8	W9	W10	W11	W12	W13	W14	W15	W16	W17
第3回庁内関係課長会議			★ 1/20														
政策形成推進会議						★ 2/6											
庁議									★ 2/27								
第3回外部有識者会議								★ 2/21									
全員協議会										★ 3/7							
パブリックコメント										3/7～24							
公表													★ 4/1				

（仮）盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略

素案

令和 5 年 3 月
盛 岡 市

目 次

第 1 章	はじめに	1
1. 戦略策定の背景と目的		1
1-1. 戦略策定の背景		1
1-2. 戦略策定の目的		2
2. 戦略期間		3
3. 本戦略の位置づけ		4
3-1. 戦略の位置づけ		4
3-2. デジタル田園都市国家構想総合戦略、第 2 期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び本戦略の関係性		5
3-3. その他関連する既存計画との関係性		5
第 2 章	基本方針	7
1. 全体像		7
2. 目指すべき将来像		8
3. 戦略目標		9
4. 活動の方向性		11
4-1. 視点 1「市民の生活」		11
4-2. 視点 2「地域の経済」		11
4-3. 視点 3「まちづくり・文化」		12
5. 現状（本市の主な長所と課題）		13
5-1. 視点 1「市民の生活」		13
5-2. 視点 2「地域の経済」		14
5-3. 視点 3「まちづくり・文化」		15
第 3 章	デジタル化推進へ向けた取組方針	16
第 4 章	推進体制	24
第 5 章	情報セキュリティ及び個人情報の適正な取扱いの確保	25
参考		26
1. デジタル田園都市国家構想		26
2. 市民ワークショップ実施結果		28
3. 市民向けアンケート調査実施結果		30
4. 盛岡市内企業向けアンケート調査実施結果		31
5. 盛岡らしさ		33
6. デジタル化推進に向けた取組方針 一覧表		34
7. 用語集		40

1. 戦略策定の背景と目的

1-1. 戦略策定の背景

我が国では、2000年代に入った頃から、人口減少、少子高齢化の進行により、労働生産人口の減少、社会保障費の増大等多くの問題が顕在化しています。この解決策の一つとして、デジタル技術を用いた生産性の向上や新規事業の創出及び労働人員の再分配が国において提言されてきました。

また、本市においても、少子高齢化に伴う医療・福祉分野における負担の増加及び出生数の減少が続き、子どもを産み育てたいと思える環境整備が必要となっており、生活の利便性の向上や魅力的なまちづくりを推進する必要があります。さらに、特定の産業に偏った産業構造により自由に仕事を選択することが難しく、若者世代の市外流出の拡大の一因となっていることから、地域経済の活性化を進める必要があります。一方、本市の歴史的街並みや文化、人情といった資源・資産が“盛岡らしい¹”地域の魅力として評価されており、デジタルの活用により一層この魅力を伸ばしていく必要があります。

そのような中、世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、国内でも「新しい日常」と言われるような新生活様式（非接触、手洗い・消毒、3密回避等）が根付いてきており、これまでの“対面”行動から、デジタルを活用した“オンライン”行動（例：Eコマースの活用、配達サービスによる物品購入、オンライン会議等によるリモートワーク拡大等）への転換が、国の想定していた以上の速さで一般社会に浸透してきました。

2021年にはデジタル庁が発足し、「デジタル田園都市国家構想」が政府から発表され、2022年12月には「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が閣議決定される等、国全体として地方におけるデジタル化の推進による社会課題の解決や生活利便性の向上、東京圏への過度な一極集中の是正に努め、従来の地方創生の取組の成果等を継承・改善しながら国内経済が成長していくことを目指しています。

このような社会情勢の中、本市として地域の持続的な成長と市民のよりよい暮らしを目指すため、都市のデジタル化を戦略的に推進し、魅力的で持続可能なまちづくりを図る必要があります。

¹ “盛岡らしさ”については、P.33 参考5に記載

1－2．戦略策定の目的

本戦略は、企業や事業所、大学等教育機関および行政をはじめとする多くの関係者との協働により、産業・交通・観光・防災・社会福祉・教育等の本市が抱える各種課題の解決と、歴史・自然・祭り・スポーツ・文化・飲食等の本市が保有する資源・資産の価値の向上をデジタル実装を通じて実現し、地方創生を図りながら持続可能な経済社会の実現のために策定するものです。



盛岡が抱える各種課題の解決



盛岡が保有する 資源・資産の価値向上



2. 戦略期間

本戦略の実施期間は、2023年度（2023年4月）から2027年度（2028年3月）までの5か年とします。

なお、変化の激しい社会情勢や技術革新の動向及び国が進める施策や計画等を注視し、それらの動向を踏まえて必要に応じて戦略を見直すものとします。

戦略期間：2023年度（2023年 4 月）～2027年度（2028年 3 月）							
盛岡市の関連戦略/計画		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
デジタル化による まちづくり推進戦略			5 か年計画（'23～'27）				
盛岡市	盛岡市総合計画	10か年計画（'15～'24）					
	盛岡市行政デジタル・トランス フォーメーション推進計画	5 か年計画（'21～'25）					
	第 2 期盛岡市 まち・ひと・しごと創生総合戦略	5 か年計画（'20～'24）					
	盛岡市IT産業振興戦略	10か年計画（'21～'30）					
岩手県	岩手県DX推進計画		4 か年計画（'23～'26）				
国	デジタル田園都市国家構想 総合戦略		5 か年計画（'23～'27）				
	自治体デジタル・トランス フォーメーション（DX） 推進計画	6 か年計画（'21～'26）					

3. 本戦略の位置づけ

3-1. 戦略の位置づけ

本戦略は、デジタル化の推進により「盛岡市総合計画」に掲げる「まち・ひと・未来が輝き世界につながるまち盛岡」と4つの目標達成（①人がいきいきと暮らすまちづくり、②盛岡の魅力があふれるまちづくり、③人を育み未来につなぐまちづくり、④人が集い活力を生むまちづくり）を目指すため、地域・市民のデジタル化の推進における指針を示すものです。

また、行政内のデジタル化の推進（①行政サービスのデジタル化、②行政事務のデジタル化、③デジタル基盤の整備）を目的とした「盛岡市行政デジタル・トランスフォーメーション推進計画」及びIT産業振興を重点的に推進（①IT産業の取引拡大・高度化の推進、②企業誘致及び起業・創業による立地集積の促進、③高度IT人材の育成・確保への支援）するための指針とすることを目的とした「盛岡市IT産業振興戦略」と、緊密な連携を取り、本市全体としてデジタル化を効果的かつ効率的に推進していきます。



3－2．デジタル田園都市国家構想総合戦略、第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び本戦略の関係性

国においては、2022年12月に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を閣議決定しました。

本戦略においては、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に掲げられた4つの社会課題解決（①地方に仕事をつくる、②人の流れをつくる、③結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④魅力的な地域をつくる）を、市民生活の利便性向上、地域経済の発展、魅力的なまちづくりの3つを推進することで、本市への人の流れを活性化することができるものと整理します。

また、人口減少対策や東京圏への一極集中の是正、地域における住みやすい環境確保を主な目的としている「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と方向性が合致するため、一体的に両戦略を推進していきます。

3－3．その他関連する既存計画との関係性

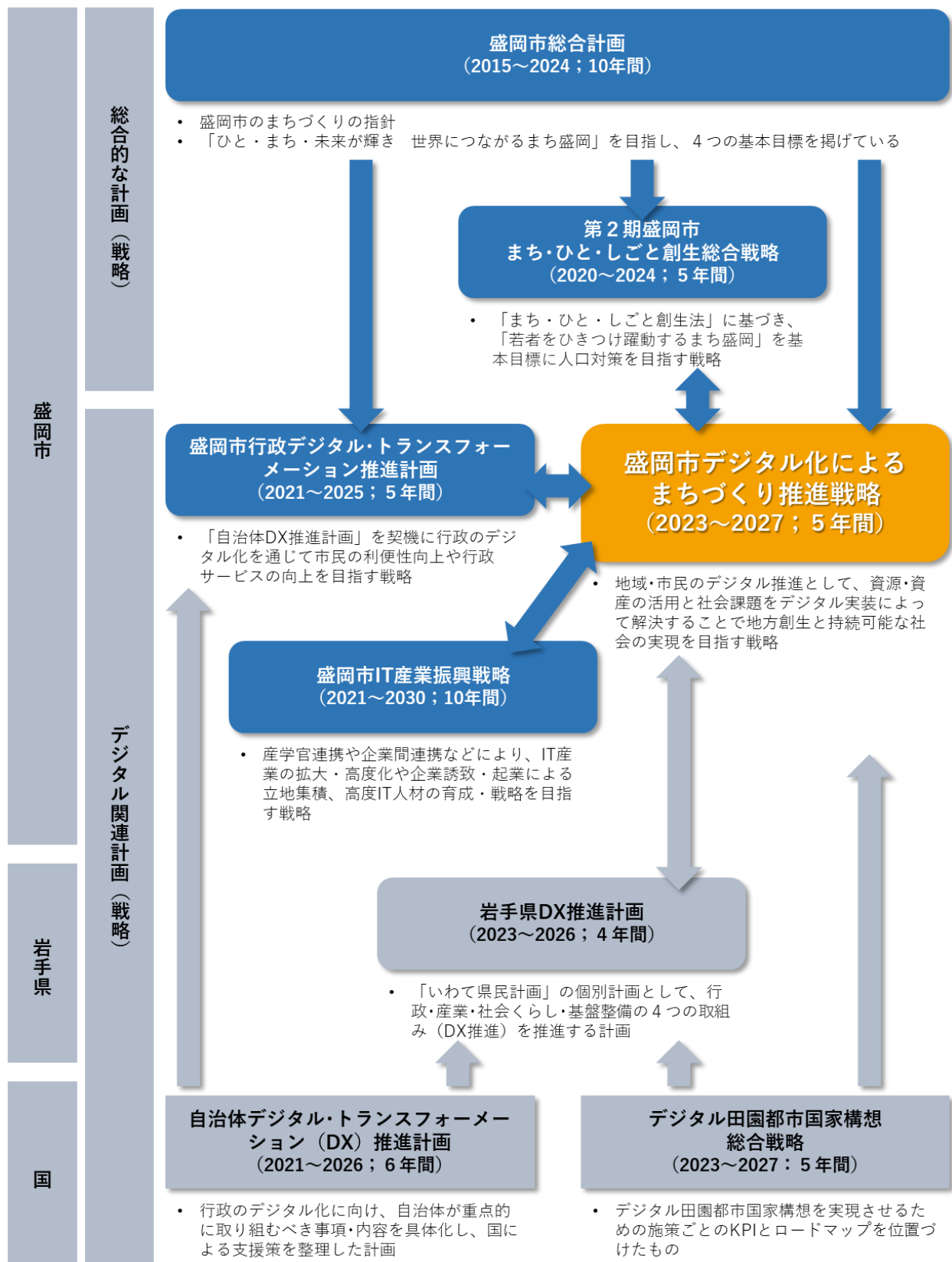
① 岩手県 DX 推進計画との関係

いわて県民計画（2019～2028）の個別計画として位置付けられている「岩手県 DX 推進計画」における、4つの取組方針（行政の DX、産業の DX、社会・暮らしの DX、DXを支える基盤整備）の各種取組内容について、整合性を確認しつつ、本戦略を推進していきます。

② 自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画との関係

自治体が重点的に取り組むべき事項・内容を具体化した「自治体 DX 推進計画」が掲げる「自治体 DX の重点取組事項」のうち、(2)マイナンバーカードの利用促進、(3)自治体の行政手続のオンライン化、等市民の生活の利便性向上に直接寄与する分野については、盛岡市行政デジタル・トランスフォーメーション推進計画と連携の上で、本戦略を推進していきます。

関連する既存計画（戦略）との関係性



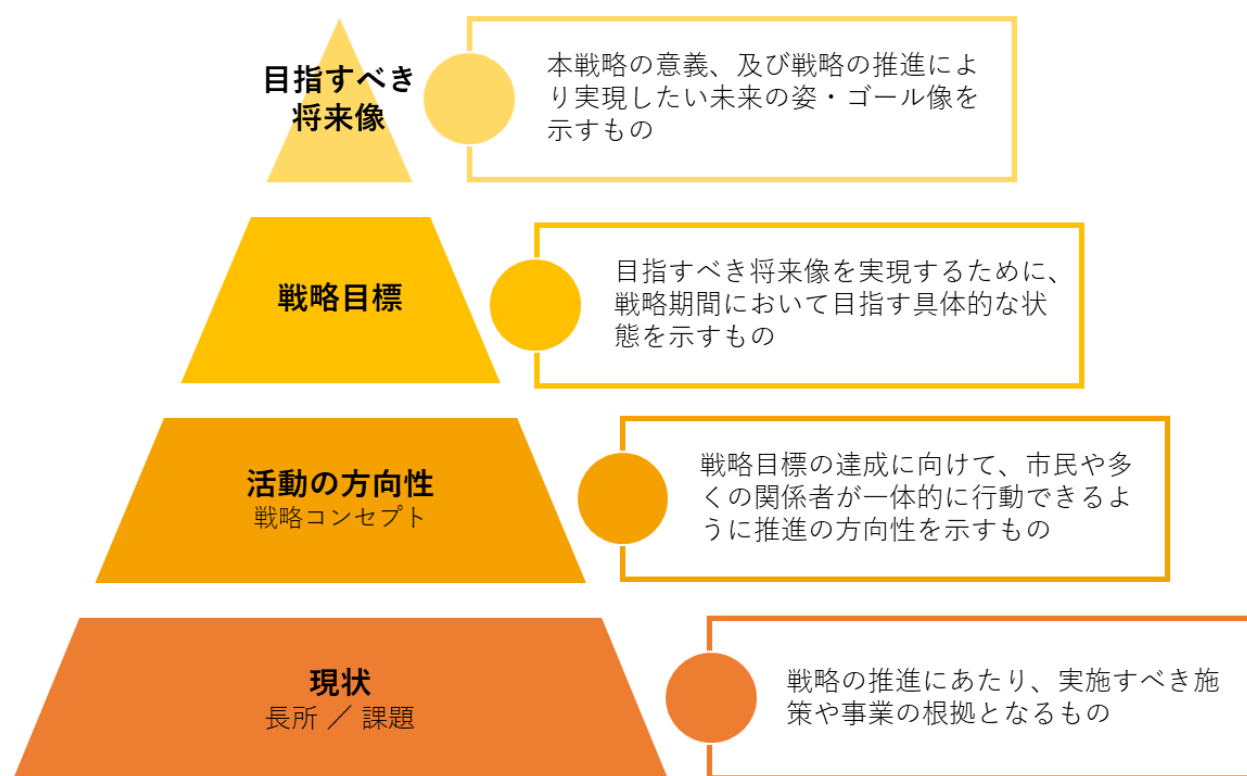
第2章 基本方針

1. 全体像

本戦略を効果的に推進するため、次のとおり体系を整理します。

本戦略の推進を通して本市が目指すべき将来像を定め、その達成のため、戦略期間における戦略目標を設定します。この戦略目標の達成に向けては、多くの関係者の協働が必要であり、一体的に進むために活動の方向性を定めます。

なお、活動の方向性は、現状の本市の長所や課題を基に定めています。(次頁から下図の順に沿って各詳細を説明します。)



2. 目指すべき将来像

本戦略で目指すべき将来像は、地域資源を活かしたデジタルの活用を基本とした「過去と未来の“盛岡らしさ”を支えるデジタル化の推進」とします。この将来像は、デジタル化の推進により市として地域の持続的な成長と市民のよりよい暮らしを目指すためのものであり、具体的には、デジタルの活用により、輝く未来の創造だけではなく、地域として培ってきた文化や歴史、自然といった長所を活かした魅力ある“盛岡らしさ”が支えられていることを表します。

もっとも、すべての事柄をデジタル化するのではなく、人と人とのつながりや、対面でのコミュニケーション等、いわゆる“アナログ”による対応が必要な場面においては、従来のアナログ的な対応も大切にしながら、デジタルの活用を進めていきます。

そして、この将来像の実現には、デジタル化の推進により便利で快適な日常生活においても、力強い地域経済のもと、安全・安心で魅力あるまちを実感できることが必要です。そのために“市民の生活”（便利で快適な日常の暮らし），“地域の経済”（力強い地域経済），“まちづくり・文化”（安全・安心で魅力あるまち）の「3つの視点」から本戦略を推進し、目指すべき将来像を実現します。

なお、目指すべき将来像を実現していくにあたり、デジタル化推進に関する情報を市民に発信したうえで、市民からの意見を具体的な事業に反映させ、本戦略を推進していきます。

目指すべき将来像

過去と未来の“盛岡らしさ”を支える デジタル化の推進

市民の生活



市民の誰もがデジタルの恩恵を受け入れられる

地域の経済



地域のあらゆる産業がデジタル推進を起点に再活性化されている

まちづくり・文化



地域の魅力が掘り起こされ、安全・安心な住み続けたいまちが実現されている

3. 戦略目標及び KPI

目指すべき将来像の実現に向けて、3つの視点から盛岡市総合計画の4つの基本目標との関係を踏まえ、戦略目標及び KPI を設定します。

■ 視点1「市民の生活」

本視点は、人口減少や少子高齢化に伴う医療・福祉及び子育て・教育問題といった社会課題の解決と、地域コミュニティを活かした住みやすい・過ごしやすい生活環境の更なる価値向上を目指すために必要な視点であり、盛岡市総合計画の基本目標「人がいきいきと暮らすまちづくり」及び「人を育み未来につなぐまちづくり」に対応するものです。市民一人ひとりにデジタル化による恩恵が広くいきわたり、よりよい“盛岡らしい”暮らしが実現されていることを目指し、「市民の誰もがデジタルの恩恵を受け入れられること」を戦略目標と定めます。

デジタルの恩恵を受けるための一つの方法として、情報通信機器を適切に利用できることが重要であり、また様々な人が利用できることが“誰もが恩恵を受けられる”ことにつながることから、KPI 指標を「情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差を感じる人の割合」とします。

戦略目標	市民の誰もがデジタルの恩恵を受けられること
------	-----------------------

KPI 指標名	単位	現状値	目標値
情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差を感じる人の割合 ²	%	59.4	23.0

■ 視点2「地域の経済」

本視点は、持続可能な経済社会の実現に向けた、本市の産業構造の偏在や労働生産性の向上、若者世代の市外流出や新たな人材の獲得・育成といった社会課題の解決と、盛岡広域圏における連携中枢都市として広域における産業や都市機能の集積拠点としての発展、魅力ある農畜産物の開発等の更なる価値向上を目指すために必要な視点であり、盛岡市総合計画の基本目標「人が集い活力を生むまちづくり」に対応するものです。本市が抱える資源・資産が活用され、地域で育んできた“盛岡らしさ”を残しまま、新たな技術・知見を活用し、デジタルの力で地域経済の成長・発展が実現されていることを目指し、「地域のあらゆる産業がデジタル化推進を起点に活性化していること」を戦略目標と定めます。

地域のあらゆる産業がデジタル化により成長・発展することで、地域経済が豊かになる

² 市民アンケート調査の「デジタル化の進展により生じる影響」にて「情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差が生じる」を選択したものの割合

ことから、KPI 指標を「地域経済が豊かになったと感じる人の割合」とします。

戦略目標	地域のあらゆる産業がデジタル化推進を起点に活性化していること
------	--------------------------------

KPI 指標名	単位	現状値	目標値
デジタル化の実施により業績が令和 4 年度より向上した企業の割合	%	— ³	60.0
KPI 指標名	単位	現状値	目標値
デジタル化の進展により地域経済が豊かになると感じる人の割合	%	7.6	60.040.0

■ 視点 3 「まちづくり・文化」

本視点は、社会インフラの老朽化や公共交通機関の不便さ、環境保全といった社会課題の解決と、本市が抱える歴史的建造物や豊かな自然、文化人や工芸品、祭りや飲食物といった観光地としての魅力ある資源・資産の更なる価値向上を目指すために必要な視点であり、盛岡市総合計画の基本目標「盛岡の魅力があふれるまちづくり」に対応するものです。デジタル化を通じて本市が抱える課題を解決し、今ある文化を守りながら、“盛岡らしい”新たな価値を創造して持続可能な社会が実現されていることを目指し「地域の魅力が掘り起こされ、安全・安心な住み続けたいまちが実現されている」を戦略目標と定めます。

安全・安心なまちとは、市民にとって快適で暮らしやすいまちであることから、KPI 指標は「快適で暮らしやすい居住環境を整える取組に満足する人の割合」とします。

戦略目標	地域の魅力が掘り起こされ、安全・安心な住み続けたいまちが実現されている
------	-------------------------------------

KPI 指標名	単位	現状値	目標値
快適で暮らしやすい居住環境を整える取組に満足する人の割合 ⁴	%	23.2	38.5

³ 令和 4 年度企業向けアンケートにおいて、デジタル化の推進により業績（売上、利益）の向上を期待する企業等が 61.0%だった。

⁴ 盛岡市まちづくり評価アンケートの満足度調査で「とても満足」または「やや満足」を選択したものの割合

4. 活動の方向性

戦略目標の達成には、多くの関係者が協働により一体的に本戦略を推進していくことが重要となることから、戦略コンセプトを「デジタルの力で盛岡の良さを紡いで伸ばす ～誇れる地元をみんなで積み重ねて育てていく～」と定め、それに基づく「3つの視点」における具体的な活動の方向性を次のとおり定めます。

4－1. 視点1「市民の生活」

市民一人ひとりにデジタル化による恩恵が広く行きわたることで市民の利便性が向上し、よりよい“盛岡らしい”暮らしが実現されることを目指し、次の3つを活動の方向性とします。

活動の方向性① 一人ひとりにやさしいデジタル化の推進

- 高齢者も子どもも障がい者も置き去りにせず、個人のデジタル格差を解消し、すべての市民が参加できるやさしいデジタル社会を目指します。

活動の方向性② 生活に根差したデジタル化の推進

- 地域コミュニティの維持・活性化を促進する等、デジタル活用の恩恵を市民生活に広く行きわたらせ、みんなが住みたい・住み続けたいと思う環境を目指します。

活動の方向性③ 生涯にわたって便利に暮らせる社会の整備

- 単独世帯、核家族世帯、三世帯世帯等、市民の様々なライフステージに合わせた暮らし環境を充実させ、生涯にわたり便利に暮らせる社会を目指します。

4－2. 視点2「地域の経済」

本市にある資源・資産が活用され、地域で育んできた“盛岡らしさ”を残したまま、新たな技術・知見を活用し、デジタル化による地域経済の成長・発展を目指し、次の3つを活動の方向性とします。

活動の方向性④ 地域資源を活かした経済の発展

- 本市が持つ良質な資源とデジタル化を掛け合わせた付加価値の高いサービスの創出を目指します。

活動の方向性⑤ 地元の企業及び事業所の持続・発展

- デジタル化の推進による地元の企業・事業所の業務効率化・生産性向上を実現し、労働者不足問題等の解消を目指します。

活動の方向性⑥ 人・技術・知見が集まる環境の整備

- 市内外や首都圏から、特にデジタル技術に関する高いスキルを持った企業・人材が集まる環境を目指します。

4－3．視点3「まちづくり・文化」

デジタル化によって本市が抱える課題を解決し、今ある文化を守りながら新たな“盛岡らしさ”が創造され、盛岡の魅力があふれる持続可能な社会の実現を目指し、次の3つを活動の方向性とします。

活動の方向性⑦ 持続的かつ革新的な地域の発展

- 歴史的街並みや文化等、“盛岡らしさ”を残しながらも、デジタル活用により新しい技術・知見を取り入れ、更に価値を高めていくことを目指します。

活動の方向性⑧ 安定したインフラ環境の提供

- これからも便利に暮らすことができるよう、安全・安心な都市インフラ機能の強化のためにデジタル活用による効率的な手法の推進を目指します。

活動の方向性⑨ 市内外の多くの人がつながるまちの実現

- デジタル技術を活用して本市の魅力を積極的・効果的に打ち出し、関係人口の増加を目指します。

5. 現状（本市の主な長所と課題）

「盛岡市総合計画」や「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のほか、市民ワークショップや市民アンケートの結果を踏まえ、本市の現状を整理しました。詳細については、別途、「資料編 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略」に示します。

5-1. 視点1「市民の生活」

“市民の生活”の視点における現状は、次のとおりです。

現状	No.	内容	活動の方向性
長所	1	コンパクトで住みやすい・過ごしやすい環境	①
	2	教育や医療分野等の中核機能を有す	③
	3	保育所待機児童数0の達成 ⁵	
課題	4	デジタルリテラシーによる情報格差の拡大が懸念される	①
	5	市民一人ひとりがより豊かな人生を送れるよう、生涯学習のさらなる推進が必要	
	6	公共空間での通信環境のさらなる整備が望まれている	
	7	通信環境やデジタル機器配備等の教育環境が十分整備されていない	
	8	買い物等におけるキャッシュレス決済が普及していない	②
	9	町内会や民生委員等の地域の担い手が不足し、地域コミュニティの維持が困難になってきている ⁶	
	10	地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉の推進が必要	③
	11	健康づくり・医療環境の拡充が必要	
	12	出会いや結婚の支援、出産・子育てに対する不安の軽減が望まれている ⁷	
	13	子育て・教育の支援、夫婦協働育児のためのワーク・ライフ・バランスの推進が必要 ⁸	

⁵ 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略、P.13

⁶ 盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024、P.71

⁷ 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略、P.38

⁸ 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略、P.38

5－2．視点2「地域の経済」

“地域の経済”の視点における現状は、次のとおりです。

現状	No.	内容	活動の方向性
長所	1	魅力ある農畜産物がある（盛岡りんご、もりおか短角牛等）	④
	2	地域発展に取り組む企業・事業所及び企業経営者が多い	
	3	産学官連携研究センター及び新事業創出支援センター等のインキュベーション施設が充実している ⁹	⑤
課題	4	地元の企業・事業所や事業の後継者人材が不足している ¹⁰	④
	5	市内の卸・小売の事業所数や従業員が減少傾向にある ¹¹	
	6	中心市街地における居住人口が減少傾向にある	
	7	中心市街地の小売年間販売額が減少している ¹²	
	8	中小零細企業・事業所が活用しやすい支援施策が求められている	
	9	労働生産性が低い傾向にある	
	10	デジタル化推進や導入時の資金援助が望まれている	
	11	海外展開を視野に入れた新市場の開拓・販路拡大に着手している企業・事業所が少ない ¹³	
	12	デジタルスキル取得、デジタルツール活用に向けた支援体制の構築が十分でない	⑤
	13	デジタル人材獲得・育成に向けた投資支援が十分でない	
	14	若者や女性が希望する就職先として“地元”が定着しておらず、就職支援や魅力的な雇用創出が必要である ¹⁴	⑥
	15	起業支援、企業誘致、新事業拡大に向けた人材獲得・育成・支援が必要	

⁹ 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略、P. 27

¹⁰ 盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024、P. 138

¹¹ 盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024、P. 138

¹² 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略、P. 25

¹³ 盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024、P. 129

¹⁴ 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略、P. 25

5－3. 視点3「まちづくり・文化」

“まちづくり・文化”の視点における現状は、次のとおりです。

現状	No.	内容	活動の方向性
長所	1	盛岡城や大慈寺地区の町家、岩手銀行赤レンガ館等の歴史的建造物が多い	⑦
	2	サッカーやバスケットボール等のプロスポーツクラブが地域に根付いている	
	3	盛岡さんさ踊りや盛岡三大麺、喫茶店等、観光先として魅力的な資源がある（米ニューヨーク・タイムズ紙）	
	4	治安がよく、災害が少ない安全・安心な環境である ¹⁵	⑧
課題	5	海外・東京圏に対する情報発信が十分でない ¹⁶	⑦
	6	インバウンド需要を踏まえた海外旅行者への適切な対応が必要 ¹⁷	
	7	災害への備えと迅速な情報発信が求められている	⑧
	8	除雪状況及びそれに伴う道路情報の発信が不足している	
	9	CO2削減を含めた地球環境の保全と自然との共生が求められる	
	10	都市基盤施設の維持、強化及び老朽化したインフラへの対応が必要 ¹⁸	
	11	デジタル決済や電子掲示板等の公共交通機関の利便性向上が求められている	
	12	市民の生活利便性をさらに向上させるため、渋滞緩和を含めた交通環境の構築が必要	
	13	関係人口の増加、移住・定住人口増加を促進する必要がある	⑨

¹⁵ 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略、P.27

¹⁶ 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略、P.46

¹⁷ 盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024、P.149

¹⁸ 盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024、P.158

第3章 デジタル化推進へ向けた取組方針

前章で整理した現状を踏まえ、各活動の方向性に対するデジタル化の推進に関する取組方針、及び活動目標を次のとおり設定します。

活動の方向性① 一人ひとりにやさしいデジタル化の推進

(1) デジタル格差の解消

年齢、性別、障がいの有無、出身によるデジタル格差を解消することを目指します。

【主な取組】

- ・ モバイル端末等活用講習の実施
- ・ 地域におけるデジタル化サポート組織等の結成
- ・ 市が開設したサイトのウェブアクセシビリティ対応の徹底
- ・ 視覚聴覚障がい者、外国人に対する通訳アプリ端末の行政窓口設置 等

(2) 公共サービスのデジタル化推進

行政手続や本市が保有するデータの活用等、公共サービスのデジタル化を推進することで、市民の利便性向上を目指します。

【主な取組】

- ・ 行政手続のオンライン化
- ・ 24時間対応の問い合わせ対応サービスの導入
- ・ オープンデータの推進 等

(3) ネットワーク環境の向上

市内のネットワーク環境を向上させることで、市民のデジタル活用の利便性向上や災害対策（災害時におけるネットワーク環境）の確保を目指します。

【主な取組】

- ・ 公共空間、公共施設への通信環境の整備 等

活動目標は、やさしいデジタル化の実現に向けて「誰もがデジタル化の恩恵を受けられる」とします。

活動目標 1

誰もがデジタル化の恩恵を受けられる

活動の方向性② 生活に根差したデジタル化の推進

(4) 市民の利便性向上のための市民アプリ（MORIO ペイ等）の利用拡大

地域循環型決済ツールである MORIO ペイ等を活用し、市民参加型アプリとしての利用機会を拡大することで、市民の利便性の向上を目指します。

【主な取組】

- ・ 市内でのキャッシュレス決済の普及促進
- ・ MORIO ペイ登録者数及び加盟店数の拡大
- ・ MORIO ペイの地域通貨機能と連携した市民サービスの提供 等

(5) デジタル活用による地域コミュニティ活動の改善

デジタルサービスやツールの活用等により、地域コミュニティ活動の利便性向上を目指します。

【主な取組】

- ・ 電子回覧版等、自治会・町内会の情報発信媒体のデジタル化推進 等

(6) 防犯・防災情報の発信強化

市民に向けた防犯・防災情報の発信強化を推進することで、安全・安心で便利に暮らしていける環境の構築を目指します。

【主な取組】

- ・ SNS 等を活用した防犯情報の発信
- ・ 災害データを活用した危険地域予測
- ・ 除雪及びそれに伴う道路情報の発信 等

(7) デジタル活用による環境負荷の低減推進

デジタルを活用した環境負荷の低減を推進することで、自然にやさしく住み環境の整備を目指します。

【主な取組】

- ・ 脱炭素・循環型空間の構築支援
- ・ 自然エネルギー発電施設の設置支援 等

活動目標は、生活に根差したデジタル環境の整備推進に向けて「市民向けアプリ等地域に向けたデジタルサービスが活用されている」と「市民向けアプリと連携したサービスが5つ提供されている」とします。

活動目標 2	市民向けアプリ等地域に向けたデジタルサービスが活用されている
活動目標 3	市民向けアプリと連携したサービスが5つ提供されている

活動の方向性③ 生涯にわたって便利に暮らせる社会の整備

(8) 健康データを活用した医療・介護の推進

診療情報や脈拍・血圧等の健康データを活用した医療・介護の推進により、在宅医療や介護サービスの改善や質の高い医療・介護サービスの提供を目指します。

【主な取組】

- ・ 電子連絡帳の活用促進
- ・ デジタルヘルス分野（医療、介護、福祉）関連企業・事業所に対する支援拡充 等

(9) デジタル活用による婚姻数・出産数の増加

デジタルサービスやツールの整備・活用により、市内における出会いや結婚の支援及び子どもを産み育てやすい環境整備を目指します。

【主な取組】

- ・ 結婚マッチングサポート
- ・ 母子手帳アプリ『母子モ』の拡充
- ・ 24時間対応の問い合わせ対応サービスの導入（再掲） 等

(10) デジタル活用による子育て・教育環境の改善

デジタルサービスやツールの整備・活用により、子どもの見守りや教育環境の向上、夫婦協働育児のための環境整備を目指します。

【主な取組】

- ・ 保育所（園）、幼稚園のデジタル活用推進
- ・ 市立学校におけるデジタル環境整備の推進
- ・ 育児のためのテレワーク環境やワーク・ライフ・バランス向上への整備支援 等

活動目標は、安全・安心で生涯にわたって便利な社会の実現に向けて「デジタル活用による効果的・効率的な医療・福祉を提供できる環境の整備」と「デジタル活用による安心した子育て・教育が望める環境の整備」、及び「市立小・中学校における1人1台端末を授業で週3回以上利用している割合が小学校にて85.1%、中学校にて81.2%以上を達成している」とします。

活動目標4	デジタル活用による効果的・効率的な医療・福祉を提供できる環境の整備
活動目標5	デジタル活用による安心した子育て・教育が望める環境の整備
活動目標6	市立小・中学校における1人1台端末を授業で週3回以上利用している割合が小学校にて85.1%、中学校にて81.2%以上を達成している

活動の方向性④ 地域資源を活かした経済の発展

(11) デジタル活用による「盛岡ブランド」の展開

デジタルサービスやツールの活用等により、地場産業の成長・拡大による盛岡ブランドの更なる価値向上を目指します。

【主な取組】

- ・ 地場産業のデジタル化推進支援
- ・ 地場産業とスタートアップとのマッチングプラットフォームの整備
- ・ 後継者人材の獲得・育成支援 等

(12) 地域内循環経済の促進を促すための市民アプリ（MORIO ペイ等）の利用拡大

地域循環型決済ツールである MORIO ペイ等、地域通貨の利用可能場所を拡充することで、地域内循環経済の向上を目指します。

【主な取組】（再掲）

- ・ 市内でのキャッシュレス決済の普及促進
- ・ MORIO ペイ登録者数及び加盟店数の拡大
- ・ MORIO ペイの地域通貨機能と連携した市民サービスの提供 等

活動目標は、本市の持つ良質な資源を活かした魅力的な事業やサービス拡大に向けて「地域にある特産品等をデジタル活用により全国に広める」と「ふるさと納税制度による寄附額が 15 億円を達成している」とします。

活動目標 7	地域にある特産品等をデジタル活用により全国に広める
活動目標 8	ふるさと納税制度による寄附額が 15 億円を達成している

活動の方向性⑤ 地元の企業及び事業所の持続・発展

(13) 地元の企業及び事業所のビジネス拡大・再成長の支援

企業・事業所それぞれの状況に応じて、段階的にデジタル化推進を支援することで、ビジネス拡大・再成長による地場産業や地元企業・事業所の既存事業の成長・深化を目指します。

【主な取組】

- ・ デジタル推進に関連する中小企業及び事業所支援制度の拡充
- ・ デジタル活用による販路拡大支援 等

(14) デジタル人材の獲得・育成の推進

デジタル人材やスキルの獲得・育成の推進を支援することで、地元の企業及び事業所の業務効率化・労働生産性向上を目的としたデジタル化推進を目指します。

【主な取組】

- ・ デジタルスキル取得支援
- ・ 高度 IT 人材候補として地元理工系大学からの人材獲得支援
- ・ 首都圏デジタル人材と地場企業及び事業所とのマッチングプラットフォームの整備 等

活動目標は、労働生産性向上の実現と地元の企業・事業所における新たな人材、及びスキル獲得に向けて「デジタル活用により、企業・事業所の付加価値および労働生産性の向上が実現している」とします。

活動目標 9

デジタル活用により、企業・事業所の付加価値及び労働生産性の向上を実現する

活動の方向性⑥ 人・技術・知見が集まる環境の整備

(15) デジタル活用による地域の雇用環境の改善

デジタルサービスやツールの活用により地域における雇用環境の改善を図ることで、持続的な経済発展に必要な人材・技術・知見が集積されることを目指します。

【主な取組】

- ・ 市外（東京圏）企業・事業所のサテライトオフィス招致拡大 等

(16) 多様な人材確保に向けた支援

多様な人材の確保への支援を行うことで、今後のデジタル社会到来に向けて重要な資源となるデジタル人材が本市に集まる環境整備を目指します。

【主な取組】

- ・ デジタル人材が集まる拠点（シェアオフィス等）の整備
- ・ 本市の資産（町家等）を活かしたワーケーション推進 等

活動目標は、人・技術・知見の集積・活用に向けて「人材・技術が集積するプラットフォームが形成され、新たな仕事や技術が生み出されている」と「AI・IoT プラットフォームに 200 社以上の企業が参画している」とします。

活動目標 10	人材・技術が集積するプラットフォームが形成され、新たな仕事や技術が生み出されている
活動目標 11	AI・IoT プラットフォームに 200 社以上の企業が参画している

活動の方向性⑦ 持続的かつ革新的な地域の発展

(17) デジタル活用による地域資源（歴史・文化・スポーツ等）の価値向上

デジタルサービスやツールを活用した地域資源（歴史・文化・スポーツ等）の価値向上を推進することで、“盛岡らしさ”を残しながら持続的かつ革新的な地域発展を目指します。

【主な取組】

- ・ スポーツ・アート等の文化資産に対するデジタル化の推進 等

(18) デジタル活用による観光客への情報発信・観光対応の推進

デジタルサービスやツール活用により観光客（特にインバウンド）に対する情報発信・観光対応を推進することで、本市の交流人口の増加を目指します。

【主な取組】

- ・ デジタル観光マップによる市内情報の一元化、外国人対応 等

活動目標は、デジタル活用による新しい技術や知見の獲得に向けて「本市のもつ良質な資源を活かし、地域発展につなげる」と「デジタル観光マップの閲覧数が 50,000 回を超える」とします。

活動目標 12	本市のもつ良質な資源をデジタル技術を活用し、地域発展につなげる
活動目標 13	デジタル観光マップの閲覧数が 50,000 回を超える

活動の方向性⑧ 安定したインフラ環境の提供

(19) 交通環境のデジタル化推進

交通環境のデジタル化を推進することで、来訪者や市民の移動に関する利便性向上や活発な産業活動の促進を目指します。

【主な取組】

- ・ 公共交通機関における IC カード搭載率の向上
- ・ デジタル×モビリティによる利便性向上 等

(20) デジタル活用による社会インフラの高度化推進

デジタルサービスやツール活用による社会インフラの高度化を推進することで、安全・安心な都市インフラ機能の強化を目指します。

【主な取組】

- ・ ICT や AI 活用による社会インフラ維持管理
- ・ 内丸地区をはじめとした都市空間情報デジタル基盤構築 等

活動目標は、インフラ環境の安定、継続的な整備・強化に向けて「デジタル活用による効率的で安全な公共インフラの整備」と「デジタルデバイス等から取得したデータを活用・解析した渋滞対策等の交通施策を 10 件提案する」とします。

活動目標 14	デジタル活用による効率的で安全な公共インフラの整備
活動目標 15	デジタルデバイス等から取得したデータを活用・解析した渋滞対策等の交通施策を 10 件提案する

活動の方向性⑨ 市内外の多くの人がつながるまちの実現

(21) デジタルの活用による本市の魅力発信

デジタルサービスやツール活用により、本市の持つ魅力を積極的・効果的に発信することで、盛岡ならではの魅力や価値である盛岡ブランドを展開し、市内外の多くの人がつながるまちを目指します。

【主な取組】

- ・ デジタルコミュニティ活動による魅力発信
- ・ デジタルマーケティングを活用した魅力発信 等

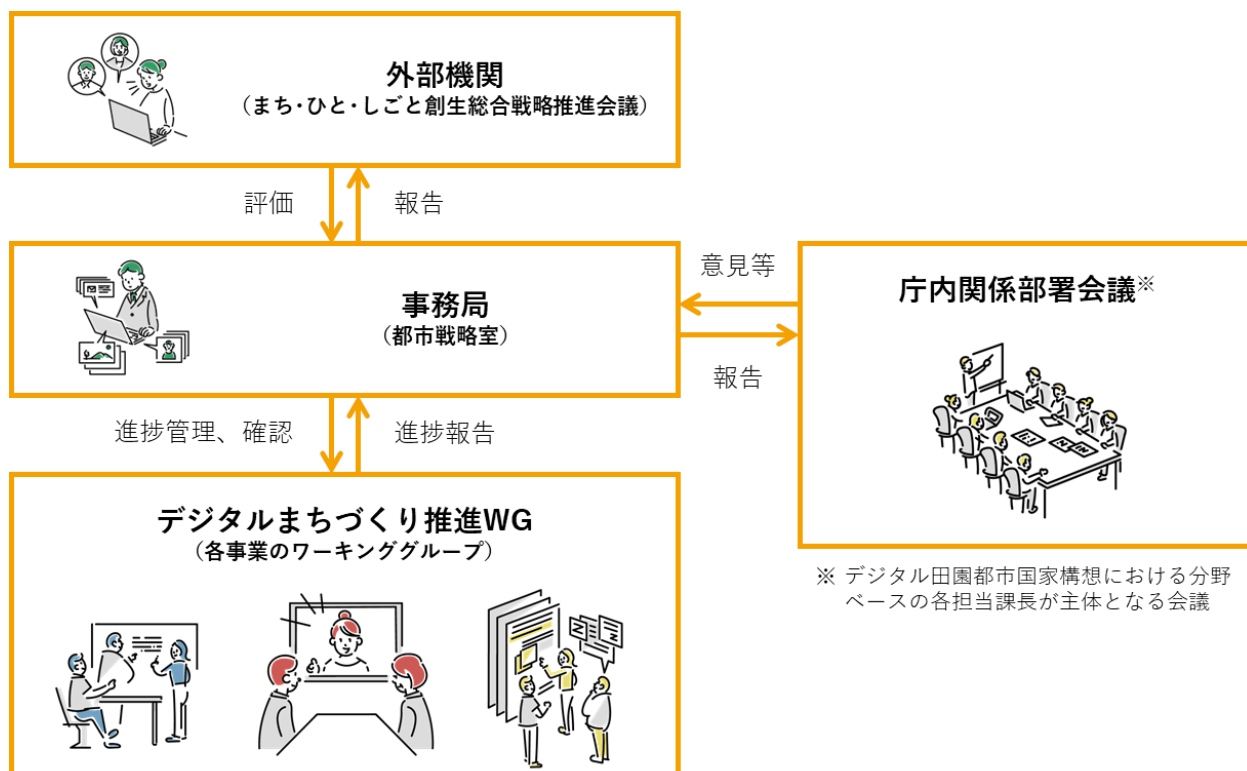
活動目標は、市内外の多くの人がつながるまちの実現に向けて「デジタル活用により本市の魅力を積極的・効果的に打ち出す」とします。

活動目標 16	デジタル活用により本市の魅力を積極的・効果的に打ち出す
---------	-----------------------------

第4章 推進体制

戦略の推進にあたっては、実施事業の関係部署の担当職員で構成する「デジタル化によるまちづくり推進ワーキンググループ（WG）」を設置し、本戦略における取組方針に即した事業を推進します。また、事務局は、各 WG の事業について進捗管理を行い、「庁内関係部署会議」へ報告します。庁内関係部署会議では、戦略の実行状況や各 WG における効率的な事業推進のための各種調整やアドバイスを実施します。

これらの結果について、外部機関である「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」に報告し、戦略の進捗について評価を受けます。



組織	主な役割
外部機関 (まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議)	- 策定された戦略の進捗状況の検証及び検証結果を踏まえた推進戦略の見直しのために有識者から意見を伺う - 委員は、「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進会議メンバーが参画する
デジタルまちづくり推進 WG (各取組の WG)	- 事業毎に関係部署の担当職員で構成する - 実施内容に応じて、市職員だけでなく、企業等もワーキングメンバーとして参画する
庁内関係部署会議	- 策定された戦略の報告に対して意見等を行う - WG の効率的な推進のための各種調整やアドバイスを実施する
事務局	- 各デジタル化によるまちづくり推進 WG の管理を行い、庁内関係部署会議へ進捗状況を報告する - 上記結果を外部機関であるまち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議へ報告する

本戦略の実施にあたり、「サイバーセキュリティ基本法」、「サイバーセキュリティ戦略」、「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」、「情報セキュリティ対策に関する規定」に基づく適切な情報セキュリティを確保するほか、「個人情報の保護に関する法律」及び「個人情報の保護に関する条例」に基づく適切なデータの公開、運用を図ることとし、個人情報やプライバシーの保護を徹底しながら、データ活用に係る市民の不安の払拭に努めることとします。

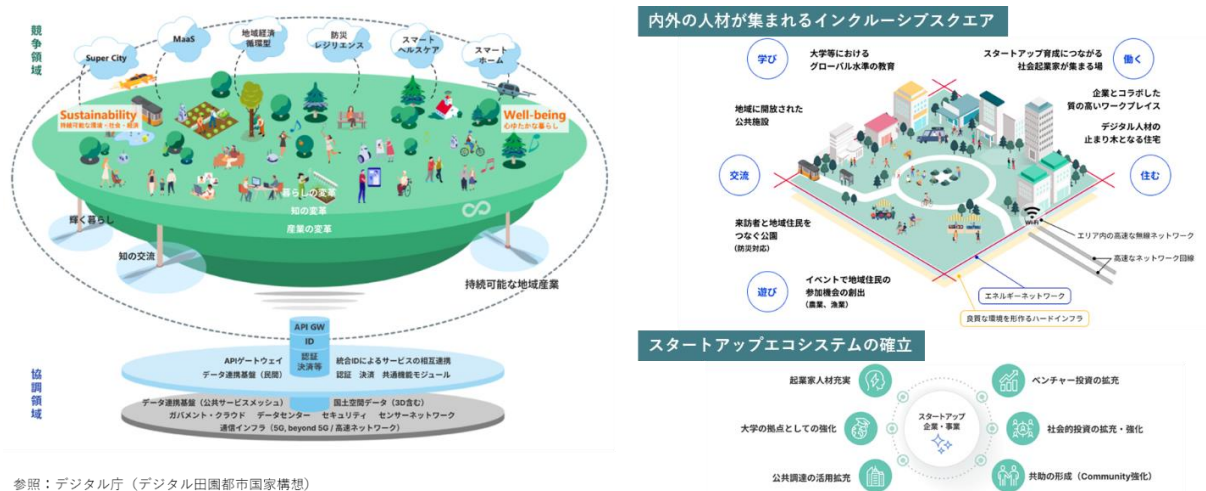
参考

1. デジタル田園都市国家構想

2022年6月に基本方針が閣議決定され、デジタルインフラを整備して官民双方で地方におけるデジタル・トランスフォーメーション（DX）を積極的に推進するために、①デジタルの力を活用した地方の社会課題解決、②デジタル田園都市国家構想を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備、③デジタル人材の育成・確保、④誰一人取り残されないための取組を4つの柱として取組を推進するとしています。



デジタル田園都市国家構想が目指すのは、地域の豊かさをそのままに、都市と同じ又は違った利便性と魅力を備えた、魅力溢れる新たな地域づくりです。具体的には、「暮らし」や「産業」等の領域で、デジタルの力で新たなサービスや共助のビジネスモデルを生み出しながら、デジタルの恩恵を地域の皆様に届けていくことを目指すとされています。



2022年12月に閣議決定された「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の基本的な考え方として「デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023年度～2027年度）内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局」にて次のとおり示されています。

【総合戦略の基本的考え方】

- テレワークの普及や地方移住への関心の高まり等、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- 東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方に住み働きながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにすることで、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップの成長につなげていく。
- デジタル技術の活用は、その実証の段階から一層の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府省庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の横展開を加速化。
- これまでの地方創生の取組も、全国で取り組まれてきた中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要。

【総合戦略のポイント】

- まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、2023 年度から 2027 年度までの 5 か年の新たな総合戦略を策定。デジタル田園都市国家構想基本方針で定めた取組の方向性に沿って、各府省庁の施策の実現・具体化を図るとともに、KPI とロードマップ（工程表）を位置づけ。
- 地方は、地域それぞれが抱える社会課題等を踏まえ、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築し、地方版総合戦略を改訂。地域ビジョン実現に向け、国は政府一丸となって総合的・効果的に支援する観点から、必要な施策間の連携をこれまで以上に強化するとともに、同様の社会課題を抱える複数の地方公共団体が連携して、効果的かつ効率的に課題解決に取り組むことができるよう、デジタルの力も活用した地域間連携の在り方や推進策を提示。

総合戦略の基本的考え方

▶ デレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、**社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化**し、**「全国どこでも誰がも便利で快適に暮らせる社会」を目指す。**

▶ **東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方へ住み働きながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにすることで、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へよりホトムアップの成果につなげていく。**

▶ デジタル技術の活用は、その地域の段階から実装の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府県庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の模倣等を加速化。

▶ **これまでの地方創生の取組も、全国で取り組まれてきて中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要。**

<総合戦略のポイント>

- まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、**2023年度から2027年度までの5年かの新たな総合戦略**を策定。デジタル田園都市国家構想基本方針で定めた取組の方向性に基づき、**各府県庁の施策の充実・具体化**を図るとともに、**KPIとロードマップ（工程表）**を位置付け。
- 地方は、地域ならではの抱える社会課題等を踏まえ、**地域の個性や特色を生かした地域ビジョンを再構築し、地方版総合戦略を改訂。地域ビジョン実現に向け、国は政府一丸となって総合的・効果的に支援する観点から、必要な施策間の連携をこれまで以上に強化する**とともに、**同様の社会課題を抱える複数の地方公共団体が連携して、効果的かつ効率的に課題解決に取り組むことができるよう、デジタルの力も活用した地域間連携の在り方や推進策を提示。**

施策の方向

デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

デジタルの力を活用して地方の社会課題解決に向けた取組を加速化・深化

- 1 地方に仕事を創出
スタートアップ・エコシステムの確立、中小・中堅企業DX（キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー等）、スマート農林水産業・食品産業、観光DX、地方大学を核としたイノベーション創出 等
- 2 人の流れをつくる
「転職なき移住」の推進、オンライン関係人口の創出・拡大、地域居住者への推進、地方大学・高校の創設など、女性や若者に選ばれる地域づくり 等
- 3 結婚・出産・子育ての希望がかなえる
結婚・出産・子育ての支援、仕事と子育ての両立など子育てしやすい環境づくり、こども政策におけるDX等でのデジタル技術を活用した地域の様々な取組の推進 等
- 4 魅力的な地域をつくる
教育DX、医療・介護分野DX、地域交通・インフラ・物流DX、まちづくり、文化、スポーツ、国土強靱化の強化等、地域コミュニティ機能の維持・強化 等

地方のデジタル実装を加速化

デジタル実装の基礎条件整備

デジタル実装の前提となる取組を国が強力に推進

- 1 デジタル基礎の整備
デジタル社会基盤整備基本計画（デジタルの普及・利活用、データ連携基盤の構築、デジタル社会基盤整備基本計画（デジタルの普及・利活用）の活用による持続可能性と利便性の高い公共サービスネットワークの整備、エネルギーインフラのデジタル化 等
- 2 デジタル人材の育成・確保
デジタル人材養成プラットフォームの構築、職業訓練のデジタル分野の重点化、高等教育機関等におけるデジタル人材の育成、デジタル人材の地域への流出促進、デジタル人材の育成・確保 等
- 3 誰一人取り残されないための取組
デジタル推進委員の選定、デジタル民生の実現、経済的事情等に基づくデジタルバリエーションの選定、利用者視点でのサービスデザイン体制の整備 等

地域ビジョンの実現に向けた施策間連携・地域間連携の推進

<モデル地域ビジョンの例>

- スマートシティ・スーパーシティ
スマートシティ
ACI（茨城県水戸市）
- 「デジタル」中山間地域
デジタル活用による中山間地域の活性化
- 産業官 創都都市
データを活用したスマート産業官の創出（岡山県高梁市）
- 観光官 先行地域
バイオマス産物活用型観光（岡山県真庭市）
- SDGs 未来都市
地域交通システムやコミュニティバス（岡山県赤松市）

<重要施策分野の例>

- 地域交通のり・デザイン
自動運転バス（山口県徳山市）
- こども政策
保育園等と連携したデジタル活用（東京都豊島区）
- 教育DX
デジタルを活用した学習（東京都豊島区）
- 観光DX
デジタルを活用した観光（東京都豊島区）
- デレワーク
デジタルを活用した働き方（東京都豊島区）
- デジタル活用による地域活性化
デジタルを活用した地域活性化（東京都豊島区）

地域ビジョン実現を後押し

<施策間連携の例>

関係施策の取組みとめ

- 〆関係府県庁の施策を連携させ、地方にわかりやすい形で提示

重点支援

- 〆モデルとなる地域を選定し、支援策の検討・支援

優良事例の模倣

- 〆他地域のモデルとなる優良事例の周知・共有、模倣

伴走型支援

- 〆インフラや制度・組織体制の構築や地方自治体の活用等による伴走型支援

<地域間連携の例>

デジタルを活用した取組の深化

- 〆自治体間連携の仕組みにおけるデジタル活用による取組を促進

重点支援

- 〆国が事業の採択や地域への支援等を行う際に、地域間連携の取組を評価・支援

優良事例の模倣

- 〆地域間連携の優良事例を収集し、メニューブック等を通じて広く周知・共有

参照：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局（デジタル田園都市国家構想総合戦略）

2. 市民ワークショップ実施結果

本戦略の策定にあたり、デジタルを活用した本市の未来の理想社会を考える市民ワークショップを次のとおり実施しました。

	内容
実施日時	2022 年 11 月 19 日（土） 13:30～15:30
実施場所	パルクアベニュー・カワトク cube-II 地下 1 階 「盛岡という星で BASE STATION」
参加者	計 11 名（10 代～70 代）
実施内容	1. 本市のデジタル化推進に向けた取組の現状やデジタル先進都市事例の紹介 2. WS（テーマ：デジタルを活用した盛岡の未来の理想社会を考える） ● STEP 1：“盛岡の現状と課題”を考えよう ● STEP 2：“目指すべき盛岡市の姿”を考えよう ● STEP 3：“デジタル推進で叶えてほしいサービスと期待したい施策”を考えよう

ワークショップを実施して得られた結果を下表に整理します。

項目	内容
総論	・年代問わず、岩手山や川等豊かな自然を本市の良いところとして挙げる声が多く、他にも食や祭り等の文化に対して良さを感じている ・交通の不便さや娯楽施設の少なさ等地方に共通する課題とともに、東北地方ならではの雪に関する課題感が多い ・本市の良さを活かして若者が残りたいと思うまち、そして子どもからお年寄りまですべての市民が安全に暮らせるまちを目指したらよいのではないかという意見が挙がった
盛岡市の現状・課題	・人・食・自然・文化の観点で盛岡の良さを感じている市民が多い ・公共交通機関の不便さや若者の流出、娯楽施設の少なさ等地方に共通してみられるような課題に関してもグループ問わず意見が挙がった ・降雪地ならではの課題感を持つ市民が多い ・除雪そのものに関する悩みのほか、そこから派生して朝夕の渋滞や雪解けによる道路の劣化に困るという声や、冬場に遊べる施設が欲しいという声も聞かれた

項目	内容
目指すべき 盛岡市の姿	・労働や子育て等複数分野の環境を整えることで「若者が残るまち」を目指すべき姿として挙げる声が多い ・若者だけでなく高齢者にとっても便利で安全なまちにしたい等、デジタル化の恩恵が幅広くいきわたってほしいという市民の思いが大きい ・本市の魅力を市民が感じながら暮らすことはもちろん、その良さを市外にも発信できるまちを目指したいという、長所をいかしたブランディングや集客に積極的な意見も挙がった
叶えてほしい サービス・ 期待したい施策	・学生目線では、移動手段の要となるバスや電車の利便性を高めてほしいという声や電子決済サービス導入店舗の拡大を期待する意見が挙がった ・社会人目線では、特に若者の雇用拡大や、自身の働き方の刷新を望むようなアイデアが比較的多くみられた ・家族目線では、子どもの教育や医療サービスの充実、お年寄りの見守り等に関してデジタル推進を期待できるのではないかとという意見が挙がった



3. 市民向けアンケート調査実施結果

本戦略の策定にあたり、市民向けアンケート調査を次のとおり実施しました。

	内容
実施日時	2022 年 11 月 29 日（火）～2023 年 1 月 13 日（木）
回答数	169 件
実施方法	Google フォーム（盛岡市 WEB ページ） ※ トップページ＞市政情報＞市の政策・企画＞盛岡市のデジタル・トランスフォーメーション（DX）に関する取り組み＞盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略＞盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略の策定
アンケート設問	1. 現在、所有している情報通信機器をすべてお答えください 2. 現在、利用している SNS をすべてお答えください 3. 盛岡市で提供しているデジタル行政サービス（インターネットで提供しているサービス）で利用したことがあるものをすべてお答えください 4. 盛岡市のことをよく知らない友人・知人から「盛岡の魅力は何？」と尋ねられたとしたら、あなたはどのように伝えますか？ 5. 盛岡にキャッチフレーズをつけるとしたら、何とつけますか？ 6. それぞれ今の生活で困っている程度をすべてお答えください 7. デジタル化によって Q6 のどのお困りごとが解消すると期待できるかすべてお答えください 8. デジタル化推進に期待することをすべてお答えください 9. デジタル化推進で不安に思うことをすべてお答えください 10. 盛岡市が実施するデジタル化推進の取組として、特に力を入れてほしいと思う取組 3 つを選んでください 11. Q10 で選択したもので、具体的な内容があればお答えください 12. 市のデジタル化推進施策についてご要望・ご意見等がありましたらご記入ください

上記調査結果については、別紙の”資料編 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略_初版“に詳細を取りまとめています。

4. 盛岡市内企業向けアンケート調査実施結果

本戦略の策定にあたり、盛岡市内企業向けアンケート調査を次のとおり実施しました。

	内容
実施日時	2022 年 11 月 29 日（火）～2023 年 1 月 13 日（木）
回答数	67 件
実施方法	Google フォーム（盛岡市 WEB ページ） ※ トップページ＞市政情報＞市の政策・企画＞盛岡市のデジタル・トランスフォーメーション（DX）に関する取り組み＞盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略＞盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略の策定
アンケート 設問	【デジタル化推進状況について】 1. 貴社として、デジタル化推進の必要性をお答えください 2. Q1 で回答いただいた理由をお答えください 3. 貴社は積極的にデジタル化を推進しているか、お答えください (Q3 で「積極的にデジタル化促進をしている」と回答いただいた方) 4. 貴社のデジタル化推進状況について、どのように感じているかお答えください 5. Q4 で回答いただいた理由をお答えください 6. 貴社で既に取組んでいる（または取組んだ）デジタル推進施策をすべてお答えください 7. Q6 で選択したものの具体的な内容についてお答えください 8. 貴社におけるデジタル化推進に向けた施策を実施した結果についてお答えください 9. 貴社で取組んでいるデジタル推進施策について、業績”外”の部分におけるプラスの影響についてすべてお答えください 10. 貴社で取組んでいるデジタル推進施策について、業績”外”の部分におけるマイナス影響についてすべてお答えください (Q3 で「積極的にデジタル化促進をしていない」と回答いただいた方) 11. 貴社が積極的にデジタル化を推進していない最大の理由をお答えください

	項目
アンケート 設問	【デジタル化推進に向けた課題】 12. 貴社のデジタル化推進に向けた課題をすべてお答えください 13. Q12 で選択したもので、課題解決に向けた具体的な方法があればお答えください 14. 貴社におけるデジタル化推進に対して期待する程度をお答えください 15. 貴社のデジタル化推進に向けて盛岡市（行政）に期待したいことをすべてお答えください 16. Q15 で選択したもので、具体的な内容についてお答えください 【盛岡市のデジタル化推進への取組】 17. 盛岡市が実施するデジタル化推進の取組として、特に力を入れてほしいと思う取組3つを選んでください 18. Q17 で選択したもので、具体的な内容があればお答えください 19. 盛岡市のデジタル化施策についてご要望・ご意見等がありましたらご記入ください

上記調査結果については、別紙の”資料編 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略_初版“に詳細を取りまとめています。

5. 盛岡らしさ

本戦略では、デジタル化の推進を通じて、本市がもつ“良さ”や“らしさ”を活かした新たな魅力の創出を目指しています。本市には、豊かな自然のほか、歴史や文化等数多くの資源や、やさしく温かい人情味あふれた市民に対して、多くの観光客や関係者から魅力的といわれる多くの“良さ”があります※。

そのような本市が持っている“良さ”に通じる多くの市民が感じる盛岡“らしさ”については、下記のとおり、「盛岡ブランド推進計画（2005～2014）」にて記された“盛岡らしさ6か条”を準用します。

＜盛岡らしさ6か条＞

1. 【風土】周囲を山に囲まれ、清らかな水に恵まれ、身近にある自然と寒さの厳しい気候風土の中で、凛として芯が強い気骨ある人材と清々しい人柄を育む。（ならば盛岡らしい）
2. 【人情】分かち合いの気持ちやもてなしの心で、人と人との絆を大切にしよう人々がおおり、住み続けたい気持ちを深める。（ならば盛岡らしい）
3. 【まちなみ】四季の彩が鮮やかで、まちなかに懐かしさの残るまちなみがあり、おだやかな風情を感じ誰でも歩いて楽しめる。（ならば盛岡らしい）
4. 【芸術文化】啄木・賢治等時代を先駆ける文学者を育み、市民文化が豊かで、芸術家たちが暮らし、集いあう。（ならば盛岡らしい）
5. 【特産品】他の文化を柔軟に取り入れ自らの工夫を取り入れた特色ある文化や飾らず質の高い伝統の技を継承し、本物の良さを追求している。（ならば盛岡らしい）
6. 【拠点性・広域性】北東北の人・情報の交流の場であり、文化を「創造・発信」する。（ならば盛岡らしい）

※ 米ニューヨーク・タイムズ紙（電子版）が2023年1月12日に発表した「2023年に行くべき52カ所」の1つに本市が次の理由等により選ばれました。

- 大正時代に建てられた和洋折衷の建築や現代的なホテルのほか、伝統的な旅館がある
- 城跡も公園になっていて、歩いて楽しめる街
- 東京から新幹線にて短時間で行ける距離にあり、人混みを避けて歩いて楽しめる美しい場所
- 市内のコーヒーショップやわんこそばの店、40年以上続くジャズ喫茶等食の魅力

6. デジタル化推進に向けた取組方針 一覧表

視点 1 「市民の生活」

KPI	活動の方向性	取組方針	主な取組例	活動目標	現状	現状の分類
情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差を感じる人の割合	① 一人ひとりにやさしいデジタル化の推進	(1) デジタル格差の解消	モバイル端末等活用講習の実施	1. 誰もがデジタル化の恩恵を受け入れられる	デジタルリテラシーによる情報格差の拡大が懸念される	課題
			地域におけるデジタル化サポート組織等の検討			
			市が開設したサイトのウェブアクセシビリティ対応の徹底		市民一人ひとりがより豊かな人生を送れるよう、生涯学習のさらなる推進が必要	課題
			手話通訳付き動画による行政サービス利用のサポート			
		(2) 公共サービスのデジタル化推進	行政手続のオンライン化		コンパクトで住みやすい・過ごしやすい環境	長所
			24時間対応の問い合わせ対応サービスの導入			
			オープンデータの推進			
	② 生活に根差したデジタル化の推進	(3) ネットワーク環境の向上	公共空間、公共施設への通信環境の整備	2. 市民向けアプリ等地域に向けたデジタルサービスが活用されている	公共空間での通信環境のさらなる整備が望まれている	課題
					通信環境やデジタル機器供給等の教育環境が十分整備されていない	課題
		(4) 市民の利便性向上のための市民アプリ（MORIO ペイ等）の利用拡大	市内でのキャッシュレス決済の普及促進		買い物等におけるキャッシュレス決済が普及していない	課題
			MORIO ペイの地域通貨機能と連携した市民サービスの提供			
		(5) デジタル活用による地域コミュニティ活動の改善	電子回覧版等、自治会・町内会の情報発信媒体のデジタル化推進		町内会や民生委員等の地域の担い手が不足し、地域コミュニティの維持が困難になってきている	課題

KPI	活動の方向性	取組方針	主な取組例	活動目標	現状	現状の分類
		(6) 防犯・防災情報の発信強化	SNS を活用した防犯情報の発信		治安がよく災害が少ない安全・安心な環境である	長所
			災害データを活用した危険地域予測		災害への備えと迅速な情報発信が求められている	課題
			除雪及びそれに伴う道路情報の発信		除雪状況及びそれに伴う道路情報の発信が不足している	課題
		(7) デジタル活用による環境負荷の低減推進	脱炭素・循環型空間の構築支援		CO2 削減等も見据えた地球環境の保全と自然との共生が求められる	課題
			自然エネルギー発電施設の設置支援			
	③ 生涯にわたって便利に暮らせる社会の整備	(8) 健康データを活用した医療・介護の推進	電子連絡帳の活用促進	3. デジタル活用による効果的・効率的な医療・福祉を提供できる環境の整備	教育や医療の分野等において中枢機能を持つ	長所
			デジタルヘルス分野（医療、介護、福祉）関連企業・事業所に対する支援拡充		地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉の推進が必要	課題
					健康づくり・医療環境の拡充が必要	課題
		(9) デジタル活用による婚姻数・出産数の増加	結婚マッチングサポート	4. デジタル活用による安心した子育て・教育が望める環境の整備	出会いや結婚の支援、出産・子育てに対する不安の軽減が望まれている	課題
			母子手帳アプリ「母子モ」の拡充			
			24 時間対応の問い合わせ対応サービスの導入			
		(10) デジタル活用による子育て・教育環境の改善	保育所（園）、幼稚園のデジタル活用推進		保育所待機児童数 0 を達成	長所
					子育て・教育の支援、ならびに夫婦協働育児のためのワーク・ライフ・バランスの推進が必要	課題
			市立学校におけるデジタル環境整備の推進			

KPI	活動の方向性	取組方針	主な取組例	活動目標	現状	現状の分類
			育児のためのテレワーク環境やワーク・ライフ・バランス向上への整備支援整備支援			

視点 2 「地域の経済」

活動の方向性	取組方針	主な取組例	活動目標	現状	現状の分類
④ 地域資源を活かした経済の発展	(11) デジタル活用による「盛岡ブランド」の展開	地場産業のデジタル化推進支援	5. 地域にある特産品等をデジタル活用により全国に広める	魅力ある盛岡産農畜産物がある（盛岡りんご、もりおか短角牛等）	長所
		地場産業とスタートアップとのマッチングプラットフォームの整備		地元や事業の後継者人材が不足している	課題
		後継者人材の獲得・育成支援		市内の卸・小売の事業所数や従業員が減少傾向にある	課題
	(12) 中心市街地の活性化	商店街への EC 販売促進支援および SNS 等での情報発信支援		中心市街地における居住人口が減少傾向にある	課題
		人流データ等を活用した中心市街地活性化施策の立案			
		地元情報やイベント情報等を集約した地域ポータルサイトの整備			
	(13) 地域内循環経済の促進を促すための市民アプリ（MORIO ペイ等）の利用拡大	市内でのキャッシュレス決済の普及促進		中心市街地の小売年間販売額が減少している	課題
		MORIO ペイ登録者数及び加盟店数の拡大			
		MORIO ペイの地域通貨機能と連携した市民サービスの提供			

活動の方向性	取組方針	主な取組例	活動目標	現状	現状の分類
⑤ 地元の企業及び事業所の持続・発展	(14) 地元の企業及び事業所のビジネス拡大・再成長の支援	デジタル推進に関連する中小企業及び事業所支援制度の拡充	6. デジタル活用により、企業・事業所の付加価値および労働生産性の向上が実現している	中小零細企業・事業所が活用しやすい支援施策が求められている	課題
				労働生産性が低い傾向にある	課題
				デジタル化推進や導入時の資金援助が望まれている	課題
		地域発展に取り組む企業及び企業経営者が多い		長所	
		海外展開を視野に入れた新市場の開拓・販路拡大に着手している企業が少ない		課題	
	(15) 新規ビジネス創出へのチャレンジ機会増加の推進	デジタルテック系新規事業創出への支援		産学官連携研究センター及び新事業創出支援センター等のインキュベーション施設が充実している	長所
		スタートアップ創業への支援			
	(16) デジタル人材の獲得・育成の推進	デジタルスキル取得支援		デジタルスキル取得、デジタルツール活用に向けた支援体制の構築が十分でない	課題
		高度 IT 人材候補として地元理工系大学からの人材獲得支援		デジタル人材獲得・育成に向けた投資支援が十分でない	課題
首都圏デジタル人材と地場企業及び事業所とのマッチングプラットフォームの整備					
⑥ 人・技術・知見が集まる環境の整備	(17) デジタル活用による地域の雇用環境の改善	デジタルテック系企業の誘致	7. 人材・技術が集積するプラットフォームが形成され、新たな仕事や技術が生み出されている	若者や女性が希望する就職先として“地元”が定着しておらず、就職支援や魅力的な雇用創出が必要である	課題
		市外（東京圏）企業のサテライトオフィス招致拡大			
	(18) 多様な人材確に向けた支援	デジタル人材が集まる拠点（シェアオフィス等）の整備		起業支援、企業誘致、新事業拡大に向けた人材獲得・育成・支援が必要	課題
		本市の資産（町家等）を活かしたワーケーション推進			

視点3「まちづくり・文化」

活動の方向性	取組方針	主な取組例	活動目標	現状	現状の分類
⑦ 持続的かつ革新的な地域の発展	(19) デジタル活用による地域資源（歴史・文化・スポーツ等）の価値向上	地域資産を活かしたデジタル（デジタル観光マップ等）を推進	8. 本市のもつ良質な資源を活かし、地域発展につなげる	盛岡城や大慈寺地区の町家、岩手銀行赤レンガ館等の歴史的建造物	長所
		スポーツ・アート等の文化資産に対するデジタル化の推進		サッカーやバスケットボール等のプロスポーツクラブが地域に根付いている	長所
	(20) デジタル活用による観光客への情報発信・観光対応の推進	デジタル観光マップによる市内情報の一元化、外国人対応		盛岡さんさ踊りや盛岡三大麺、喫茶店等、観光先として魅力的な資源がある（米ニューヨーク・タイムズ紙）	長所
				海外・東京圏に対する情報発信が十分でない	課題
				インバウンド需要を踏まえた海外旅行者への適切な対応が重要となる	課題
⑧ 安定したインフラ環境の提供	(21) 交通環境のデジタル化推進	公共交通機関における IC カード搭載率の向上	9. デジタル活用による効率的で安全な公共インフラの整備	デジタル決済や電子掲示板等の公共交通機関の利便性向上が求められている	課題
		デジタル×モビリティによる利便性向上		市民の生活利便性をさらに向上させるため、渋滞緩和を含めた交通環境の構築が必要	課題
	(22) デジタル活用による社会インフラの高度化推進	ICT や AI 活用による社会インフラ維持管理		都市基盤施設の維持・強化、及び老朽化したインフラへの対応が必要	課題
		内丸地区をはじめとした各地区の再整備検討の推進			
	⑨ 市内外の多くの人がつながるまちの実現	(23) デジタルの活用による本市の魅力発信	デジタルコミュニティ活動による魅力発信	10. デジタル活用により本市の魅力を積極的に・効果的に打ち出す	関係人口の増加、移住・定住人口増加を促進する必要がある
デジタルマーケティングを活用した魅力発信					

7. 用語集

用語	解説	該当頁
E コマース	電子商取引であり、Electronic Commerce の略称。ネット通販等、インターネットを介してモノやサービスの売買、契約することを表す。	P. 1
リモートワーク(テレワーク)	ICT を活用することによる、場所や時間にとらわれない働き方のこと。(例在宅勤務、モバイルワーク、サテライトオフィス等での勤務)	P. 1
デジタル田園都市国家構想	地方からデジタルの実装を進め、新たな変革の波を起こし、地方と都市の差を縮めていくことで、地方の魅力を維持しながら、都市と変わらない利便性や生活の充実を目指す構想。	P. 1
デジタル田園都市国家構想総合戦略	デジタル田園都市国家構想を実現するために、各府省庁の施策を充実・強化し、施策ごとに 2023 年度から 2027 年度までの 5 か年の KPI (重要業績評価指標) とロードマップ(工程表)を位置づけたもの。	P. 1
DX(デジタル・トランスフォーメーション)	ウメオ大学(スウェーデン)のエリック・ストルターマン教授が平成 16(2004)年に提唱した、「ICT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念。英語圏で「Trans」を「X」と略すことから、デジタルによる変革(Digital Transformation)は「DX」と略される。	P. 4
IT	Information Technology の略で、情報通信技術のこと。コンピュータやデータ通信に関する技術を総称的に表す語として用いられる場合が多い。	P. 4
デジタルリテラシー	インターネットを中心にデジタル情報や通信について、さらにはそれらを活用するパソコンやスマートフォン等の機器やアプリについて知識を持ち、利用する能力のこと。	P. 12
キャッシュレス決済	お札や小銭等の現金を使用せずにお金を払うこと。クレジットカード、電子マネー、デビットカード、スマートフォンやインターネットを使った支払い等がこれにあたる。	P. 12
ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活の調和。仕事と育児や介護、趣味等の仕事以外の生活とのバランスを取り、両方を充実させる働き方や生き方のこと。ICT を利用したテレワーク等を取り入れることでよりよいバランスを実現できるようになってきている。	P. 12
インキュベーション	新規事業の立ち上げを目指す新人起業家を総合的に支援し、企業の成長を促進させるシステム。「総合的な支援」には、経営指南、資金援助、顧客の紹介、施設の提供等が含まれる。	P. 13
労働生産性	従業員 1 人当たり、どれだけの付加価値を生み出しているのかを表す指標。	P. 13
インバウンド	外から中へ入り込むこと。一般的には外国人の訪日旅行のことを指す。	P. 14
デジタル格差	インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差。	P. 15

用語	解説	該当頁
ウェブアクセシビリティ	高齢者や障害者を含めて、誰もがホームページ等で提供される情報や機能を支障なく利用できること。	P. 15
オープンデータ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工、編集、再配布等）できるよう、①営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの、②機械判読に適したものの、③無償で利用できるもの、といういずれの項目にも該当する形で公開されたデータのこと。	P. 15
MORIO ペイ	盛岡 ValueCity 株式会社が運営する地域の電子マネー。加盟店でキャッシュレス決済をすると、100円につき1ポイント（1円分）が貯まる仕組み。	P. 16
プラットフォーム	情報やサービス・商品がやり取りされる場、環境を指す。ユーザーグループの数に応じて、ツーサイド・プラットフォーム、マルチサイド・プラットフォーム等の種類がある。	P. 18
デジタルヘルス	情報通信技術、デジタル技術を活用したヘルスケアのこと。デジタル技術を活用し、予防から治療、回復まで、健康を維持あるいは取り戻すためのすべての行為。	P. 17
スタートアップ	革新的なビジネスモデルによって社会にイノベーションを生み出すことで、起業から短期間で急成長を遂げる企業のこと。	P. 18
サテライトオフィス	オフィスと自宅の中継地となるような場所に設置された小さな分散型オフィス。オフィスと同等の仕事をこなすため、通信回線によりオフィスと連絡し合える設備を持つ。	P. 20
シェアオフィス	複数の企業・ワーカーで共用で使うオフィスのこと。プロジェクトで一定期間使う、契約した企業のワーカーが時間借りする等、利用形態は運営主体が提供するサービスによって異なる。机・椅子・ネットワーク設備等の実務環境を共有しながら仕事を行う場所。	P. 20
ワーケーション	ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語。リゾート地等で休みを取りつつ（または引っ越しして）テレワークをする働き方を指す。	P. 20
ICT	Information and Communications Technology の略で、情報通信技術のこと。情報・通信に関連する技術一般の総称であり、従来用いられてきた「IT」とほぼ同義だが、国際的には ICT が広く使われている。	P. 22
AI	Artificial Intelligence の略。人間の脳で行っている学習、推測、分析、判断等の知的な作業をコンピュータ上で実現しようとする技術のこと。	P. 22
モビリティ	可動性、流動性のこと。具体例としては、人の移動に使われる乗り物としての、電車や自動車のこと。特に自動車分野を指していることが多い。	P. 22

用語	解説	該当頁
デジタルマーケティング	様々なチャネル（Web サイト、E メール、SNS、スマートフォンアプリ、IoT 等）を通して得られる消費者のデジタルなデータを活用してマーケティングを行う手法のこと。	P. 22
WG（ワーキンググループ）	委員会等の中に設置される、具体的・実務的な作業や調査をする集まり。	P. 23

発行日 令和 5 年 3 月 XX 日
発 行 盛岡市
編 集 盛岡市市長公室企画調整課都市戦略室
電 話 019-613-8370(直通) FAX 019-622-6211
E-mail toshisen@city.morioka.iwate.jp

#	実施回	発言文（議事録まま ※同様のご指摘については一部事務局にて文言を編集しています	ご指摘の内容（事務局理解）	議事録 記録箇所	修正有無	記載頁	記載内容	記載無の経緯・理由	備考欄
1	第2回・ 第3回前	“ローカルハブ”“デジタルローカルハブ”というコンセプトを入れて欲しい。 デジタル戦略を貫くはどこに示されているのか、示されていない理由はある のか、デジタル化を地域の力で持続可能に整備・運営していくためには、地 域の経済力（地域企業の成長）向上が必要不可欠。盛岡はそのポテンシャ ルがある。デジタルを通じて力を呼び込み、地域内で新しい事業が生ま れ・育ち、それをもって経済が循環する仕組みを創る・・・など、ローカ ルハブ地域循環システムの構築の観点を是非盛り込んでいただきたい。	戦略の全体像（上位概念）の中に、 ローカルハブのという言葉、もしくは 概念を組み込んでほしい	事前コメント	有	9	戦略目標の視点2において、「盛岡広域圏における連携中枢 都市として広域における産業や都市機能の集積拠点として、 自立した経済循環の仕組みづくり」を記載しました。		
2	第2回	戦略コンセプト案・戦略目標案・行動指針案を時間軸で並べるのは違和 感。どちらかと言えば現在暮らしている市民が短期的視点、地域の経済が中 期的視点、街づくりがそれを包含する長期的視点（空間整備・更新、イン フラなどは時間がかかるという意味で）	戦略コンセプト案、戦略目標案、行 動指針案の関係性を見直してほしい	事前コメント	有	7	全体像の体系を見直し、時系列の軸を縦軸を削除しました。 修正後の体系として、目指すべき将来像→戦略目標→活動の 方向性（戦略コンセプト）→現状（長所／短所）と全体像を 整理しました。		
3	第2回	現在は、市民生活、地域の経済それぞれにまちを目指すとするが、むしろ 市民の生活（生活者）、地域の経済（産業・中小企業）に対して街づくりで どのように対応するのか、といった考え方でまとめたほうがよいのではない か	3つの視点、ではなくまちづくりに対 する"市民の生活"、"地域の経済"と いう2つの視点にしたらどうか	事前コメント	無			本戦略を推進することによって得られる成果の“対象”単位に よる戦略目標を設定するため、また、目指すべき将来像に対 して、本戦略の対象目線で各々の立場で達成できている状態 を明文化するために今回3つの視点を設定しました。 【市民】市民生活の向上（利便性、快適性などの向上） 【企業】地元企業の活性化（労働生産性、人材確保などの向 上） 【まちづくり・文化】安心安全と魅力の向上 （補足）他自治体のデジタル関連計画/戦略で示されている方 針・指針等を整理した際、①市民の生活、②地域の経済、③ まちづくり（文化・風土含む）、④行政、の4つに視点が大別 されていたため、前述の4つの観点にて網羅性があると判断し た。そのうえで、本戦略の守備範囲から外れる④を除いた3つ の視点により、市民生活全般に対応した戦略として妥当だと 判断しました。	
4	第2回	デジタル化を進めるためのまちづくり・インフラについては二つの考え方が ある。一つにはデジタル化を進める空間のあり方。これは人・技術・知見 を集めるために、大学・高等教育機関をどのように配置するのか、盛岡 駅、盛岡バスセンター、何よりも元気な中心市街地の空間整備をどう図る のか、といった点である。二つにはまちやインフラを維持・活性化するた めのデジタル化の方向。インフラの維持をデジタルでどう実現するのか、こ こを含めるべき。	中心市街地の空間整備、およびま ち・インフラ維持のためのデジタル 活用の視点を記載してほしい	事前コメント	有	22	活動の方向性⑥（20）にて、広義的な都市インフラ機能の維 持・強化についての視点を記載しました。 なお、本戦略にてデジタル化推進を対象とする地域は本市全 域を想定しているものです。 なお、都市整備部都市計画課で推進している内丸地区をはじ めとした都市空間情報のデジタル基盤構築については、「主 な取り組み」として記載しました。		
5	第2回	研究資源や来訪者の視点を入れるのが重要ではないか。むしろ入れないと 地域経済・産業・若者流入などが説明できない。	盛岡の研究資源や盛岡に来訪する人 の視点（≒外から見た盛岡の魅力） を記載してほしい	事前コメント	無			本戦略の対象は盛岡市民であるため、策定時においては市民 の生活に関する視点に重点をおくこととしました。 ただし、今後WGにて具体的な事業案を検討する際にはご指摘 の通りの視点を取り込みながら進めてまいります。	
6	第2回・ 第3回前	市民にとってのデジタル化以外に、外部から見た期待、社会課題への対応と いう視点を入れて欲しい。今の市民だけのニーズだけでは近視眼すぎる。岩 手県の中核であり、県庁所在地の視点、北東北の物流・旅客の拠点としての 視点、広域盛岡圏の中心都市の視点、＋ゼロカーボンシティを先行的に実 現する中核拠点としての視点など。 特に、岩手県における中核都市として盛岡市の存在価値は大変大きいと思 いますので、そちらも検討していただければ。	近隣市町村との広域連携や東北地方 の物流・交通拠点としての視点を入 れてほしい 盛岡市内、市民の目線だけでは近視 眼すぎではないか	事前コメント	無			盛岡市近隣市町村との連携については、“みちのく盛岡広域連 携都市圏ビジョン”において、都市のデジタル化に関する議論 を実施してからその方向性、どの計画等に位置付けるかにつ いて判断いたします。 ただし、戦略目標視点2「地域の経済」にて、広域拠点として の盛岡市の位置づけや県や近隣自治体との連携について記載 をいたしました。	
7	第2回	将来像を三つのカテゴリーに分けたのはよいが、まずそれぞれについて盛岡 の言葉を使って具体的に示して欲しい。本当にこの計画の最終年にイメージ される姿なのか、再度見直してほしい（高齢化率、世帯、人口、GDPな ど）	3つの視点からみた理想像について、 盛岡らしさや特徴を言語化しながら 記載してほしい。 また、5年後に起こりうる変化が想定 されているかを確認してほしい	事前コメント	有	8	2.目指すべき将来像および3.戦略目標にて、アナログの良さも 大切にしていこうという本市ならではの姿勢を記載したほか、3 つの視点にて具体例を挙げながら盛岡市らしさの説明を記載 しております。		本戦略は、長期を見据えた戦略である一方、市民が着実にデ ジタル化推進による恩恵を受けることができるよう、現状を ベースにした説明方針としたため、5年後の社会変化の姿など には触れずに現状からどうよくなっていくのかを基準に記載 しています。
8	第2回	生活、ライフスタイルとライフステージに合わせてデジタルが支えているイ メージ。特に盛岡では移動が課題なのか（冬）、教育なのか、医療なの か、もう少し具体的に。申請・決済と移動を同じ言葉にしたいくない。行政 サービスと都市サービスは分けるべき。	課題の記載方法についてより具体的 にしてほしい。行政サービスとそれ 以外を区別して記載してほしい	事前コメント	有	12	5.現状において、各視点における長所や課題を「盛岡市総合 計画」や「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、市民 ワークショップ及び市民アンケート結果から整理しました。		
9	第2回	地域による・・・は盛岡市の各地区ごとによって異なる施策という話か？	本戦略の記載すべてが盛岡市全体に 向けたものなのか、それとも各地区 に向けたものも含まれているのか、 対象を明確に記載してほしい	事前コメント	有	－	本戦略の対象はすべて盛岡市内全域であるとの認識を揃え、“ 地域による”という記載を削除しました。		
10	第2回	Web3.0のテクノロジーはむしろ自律分散型を促進するので拠点は逆説では ないのか。	Web3.0と新規産業のチャレンジ拠点 のかけ合わせに関する記載について 見直してほしい	事前コメント	無			Web3.0については、現時点で一般に浸透されておらず、当該 記載を行うことで理解を阻害していると考え、記載はすべて 削除しました。	

#	実施回	発言文（議事録まま ※同様のご指摘については一部事務局にて文言を編集しています	ご指摘の内容（事務局理解）	議事録 記録箇所	修正有無	記載頁	記載内容	記載無の経緯・理由	備考欄
11	第2回	まちづくりに是非中心市街地のデジタル化に触れて欲しい。 3つの視点の”まちづくり・文化”について、名称をまちづくり（中心市街地、インフラ、文化）とした方がよいのでは。	街づくり視点にて、中心市街地にフォーカスした記載を追加してほしい	事前コメント	無			本戦略にてデジタル化推進を対象とする地域は本市全域を想定しているため、中心市街地に特化した記述は記載しないこととします。 また、視点の名称についても、本戦略の対象とする場所は、市内全域としているため、名称は変更せずに、視点の説明や行動指針の説明パートにてインフラ（空間整備含む）や文化に関して記載することとしました。	
12	第2回・第3回前	市民生活・地域経済（自立経済の方がよい）・まちづくりをデジタルの力で結び付ける（連携する）といった表現が欲しいところ（単に視点を並列に列挙するのではなく、市民と経済とまちづくりをデジタルでつなぐ取組をすることが本計画の肝ではないでしょうか？） 市民・地域・まちづくりを連携させた施策のイメージを掲載して欲しい。高齢化・福祉・エネルギーを実現しつつ、関連するデジタルスタートアップが生み出されている。それを促進する空間（拠点）が盛岡中心地に整備されている・・・など	3つの視点の連環をイメージさせるような表現・施策を検討してほしい	事前コメント	有	8	目指すべき将来像に「将来像の実現には、デジタル化の推進により便利で快適な日常生活においても、力強い地域経済のもと、安全・安心で魅力あるまちを実感できることが必要」と記載し、3つの視点とデジタルの関係性を記載しました。 なお、施策に関しては、当初各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。 ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。		
13	第2回	市民の意見を取り入れるデジタルプラットフォームなど考えられないか？	民間からの意見をくみあげるようなサービスについて具体的な施策を検討してほしい	事前コメント	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。 ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。	
14	第2回	市民の生活シーンは網羅されているのか？就業、移動、教育、エネルギー、医療、介護、余暇、防災などである	市民の生活視点に対する行動指針（取組指針）が、市民の生活シーンを網羅したものになっているか見直してほしい	事前コメント	無			本戦略は、上位計画としている盛岡市総合計画の実現をデジタル活用により推進しようとするものです。そのため、前述の計画における施策や視点との整合性を図ることで、市民の生活視点に対する行動指針の網羅性を確保することとしました。	
15	第2回	地域経済は網羅されているのか？大企業、地域企業、研究開発期間・高等教育機関、人材、イノベーター、金融機関、メディアなど	地域の経済に対する行動指針（取組指針）が、実際の経済環境を網羅したものになっているか見直してほしい	事前コメント	無			本戦略は、上位計画としている盛岡市総合計画の実現をデジタル活用により推進しようとするものです。そのため、前述の計画における施策や視点との整合性を図ることで、市民の生活視点に対する行動指針の網羅性を確保することとしました。	
16	第2回	まちづくりは歴史・文化、地域の魅力発信、社会インフラという括りで適切なのか？デジタルとの関係は？都市空間（中心市街地）、都市インフラ、都市交通、ソフト（文化・伝統）×デジタルではないか。	まちづくり・文化視点に包含されている要素に抜け漏れがないか見直してほしい ハード、ソフトが含まれているか	事前コメント	有	21、22	活動の方向性⑦にて主にソフト面を（歴史・文化など）、活動の方向性⑥にて主にハード面を（インフラ整備・維持・強化など）についてふれており、本市が重視すべき点について整理したものです。		
17	第2回	KPIを設定としてどう管理するのか（人口減少に歯止め、QOL・ウェルビーイング、関係人口、生産性 こちらが目的なのではないか？）	KPIは、目的達成に即する指標となっているか、管理可能なものになっているか	事前コメント	有		戦略目標の3つの視点それぞれにKPI指標を設定し、目標への進捗を管理することとしました。なお、活動目標に直結する目標値も一部設定することで、ミクロ、マクロの両面から本戦略の進捗を計ろうとするものです。		
18	第2回	コンセプト案について、9枚目のスライドのコツコツと盛岡の良さを紡いで伸ばすというところは、コンセプトの意味合いはわかりますが、これとデジタルとの関係が少し分かりづらいつと感じます	コンセプトにデジタル活用との関係性を示してほしい	2	有	10	4.活動の方向性にて、「デジタルの力で盛岡の良さを紡いで伸ばす～誇れる地元をみんなで積み重ねて育てていく～」に変更しました。		
19	第2回	気持ちの問題としては、盛岡が好きで、文化的にも愛着を持っているけれども、どうも生活しづらいといったニュアンスもあると感じておりましてので、長所を伸ばすよということは、すごく良いことだと思う一方、直近の住民のニーズである生活利便性の向上なども記述として含まれていると良いと思います	コンセプトに、市民の喫緊の課題を解決する旨も記載してほしい	2	有	9	全体像の構成と平仄をとるためコンセプトに関する記述はp.10の4 活動の方向性に簡略化して内包する形としました。 一方、市民の喫緊の課題について重点的に取り組む姿勢を、3.戦略目標にて3つの視点の説明文において記載しました。		
20	第2回	若者たちがどんどん市外（県外）に流出している。これは、喫緊に対策しなければいけないと思います。また、非常に冬が厳しいことへの対応など、様々な分野に関連するため、喫緊の課題についても内容として含まれる必要があると思います。	若者流出や寒さ関連など、市にとって喫緊の課題についても、現状や施策の記載がほしい	3	有	13～14 20、22	若者流出、冬期の積雪に関して、5－2.視点2「地域の経済」と5－3.視点3「まちづくり・文化」にて整理しました。 活動の方向性⑥、活動の方向性⑧にて各課題の対策に関連する取組方針や取組例を記載しました。		
21	第2回	県のDX推進計画だと、時代や環境変化に応じてスピーディーに柔軟にアジャイル的に対応することが重要だ、という計画と読み取れる一方、盛岡市のコンセプトがスローでコツコツとした対応と読み取れてしまう部分もあり、県と市で少し違った視点かなという印象を受けた	コンセプトについて、デジタル推進のスピード感のようなものを、県の計画と平仄をとってほしい	3	有	10	4.活動の方向性にて、コツコツという表現を省き「デジタルの力で盛岡の良さを紡いで伸ばす～誇れる地元をみんなで積み重ねて育てていく～」に変更しました。		
22	第2回	それが、「コツコツ」だとか、それから従来の盛岡の文化や歴史、生活等が良いクオリティに向かっていくという、そのような推進の方向性がわかると良いと思います。結果として市民目線においても、今よりも生活が向上していくという安心感や非常にポジティブな生活感が出るのではないか	コンセプトを、よりデジタル推進のイメージがわくようにリバイズしてほしい	4	無			当初、本編にコンセプトの説明ページを1枚挿入し、補足説明を加える形でイメージの補強を行う想定であったが、目指すべき将来像と戦略コンセプトに同種の意味があり、理解を阻害することから、より重要な目指すべき将来像の説明を残し、今回は反映しないこととしました。	

#	実施回	発言文（議事録ま ※同様のご指摘については一部事務局にて文言を編集しています	ご指摘の内容（事務局理解）	議事録 記録箇所	修正有無	記載頁	記載内容	記載無の経緯・理由	備考欄
23	第2回	企業だけではなく、一次産業を頑張っていらっしゃる方々もいるので、そういった点にも期待できると思います。新鮮野菜をレストランで食べられるところ等も強みだと思いますので、そういった内容が記述として取り込めると良いと思います。	一次産業の強みについても戦略上に記載してほしい	4	有	9、13	3.戦略目標の視点2「地域の経済」にて魅力ある農畜産物について触れているほか、5-2.視点2「地域の経済」の現状にて同じ内容を長所として記載しました。また、企業・事業所という記載に変更しました。		
24	第2回	全国サービスと比較すると、公共バスでSuicaが使えない、電子母子手帳が当たり前になっていない等、元々、期待していたことが進んでいないという点に関しては、スピーディーに推進してほしいと思います。ただし、高齢者の方々への配慮も十分に必要	市民の期待値が高い施策（すでに実施されているもののサービス内容に改善が必要なもの）について本戦略においても優先的に推進してほしい	4	有	15～23	第3章デジタル化に向けた取組方針にて、電子母子手帳アプリの拡充や、公共交通機関におけるICカード搭載率の普及をはじめとした、既存事業・サービスの拡充・強化についても注力していくことを記載しました。		
25	第2回	コンセプトについては、盛岡らしさが非常に出ていていると感じる一方、プロセスや段取り部分についてはわかるものの、最終的に何を目標しているか？この計画が実現した時の盛岡の将来の姿が、この戦略コンセプトでは、読み取りにくいと感じています	目指すべき理想像や将来の盛岡の姿がイメージできるようなコンセプトにリバイズしてほしい	4	無			当初、本編にコンセプトの説明ページを1枚挿入し、補足説明を加える形でイメージの補強を行う想定であったが、目指すべき将来像と戦略コンセプトに同種の意味があり、理解を阻害することから、より重要な目指すべき将来像の説明を残し、今回は反映しないこととしました。	
26	第2回	サイエンスパークや大学拠点、盛岡駅やバスセンター等に対して、空間自体への挺入れや、その空間自体をデジタルで売っていく等のデジタル化施策を進めることが必要かと思います	既存の都市空間にフォーカスしたデジタル活用の施策を検討してほしい	5	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。	
27	第2回	市民の生活と地域経済とまちづくりを繋ぐ際、どのようなイメージになっているのが重要/ 今3つがバラバラになっているものを、市民目線にてイメージを具体的に記載すると、3つの視点を一緒にやることの意味がさらにわかりやすくなる	3つの視点について、それぞれ市民の目線でみた具体的なイメージを記載してほしい	5	無			目指すべき将来像の図について、当初は将来像を各視点から見た状態に市民の目線も踏まえつつ具体的に記載していたが、事務局内部にて協議の結果、初見の読みやすさ・理解しやすさを優先するために簡略化しました。そのため、最終版は当該ご指摘を反映していない形となりました。	
28	第2回	市役所自体をそのデジタル化していくことで、生み出した余力を他のところに使っていくような、まさにアナログなところに充実させていくというような方向性もあるかと思いますので、直接的なデジタル推進ではなく、デジタル推進による間接的な効果といったテーマを内容に入れても良い	デジタル活用により、アナログの良さをどう伸ばしていけるのかについて、より具体的な説明を入れてほしい	5	有	8	2.目指すべき理像将来に、アナログ活用について記載しました。		
29	第2回	雪関係の課題が多いという話がコメントでありました。なにかその辺りでデジタルを使ったらどういうことができるのか、こんな事業があったらいい等、庁内で意見を伺ったことを踏まえ、そこで出てきたものを戦略の中に盛り込んでも良い	積雪関連の課題×デジタル活用の視点で施策を検討してほしい	6	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。	
30	第2回	庁内のデジタル化というのを喫緊でやっていくべき	庁内のデジタル化についても優先的に注力してほしい	6	有	4、15	3-1戦略の位置づけにて、行政DX推進計画とのすみわけを明確にしました。行政サービスの効率化など取組の守備範囲が重複する分野については、活動の方向性①（2）にて記載しました。		
31	第2回	道路状況を日常的にリアルタイムで把握できる施策が必要	冬期の道路状況把握×デジタル活用の視点で施策を検討してほしい	6	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。	
32	第2回	マイナンバーカードについて、盛岡は県内では優秀な自治体であるため、マイナンバーカードを活用した取組みなどを実施してほしい	マイナンバーカード活用施策を検討してほしい	7	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。	
33	第2回	マイナンバーが途中で入ることによる変化を踏まえ、5年後の姿を考慮して本戦略にしっかり盛り込んでいてもらいたい	5年後に起こりうる変化を踏まえて理想像を説明してほしい	8	無			長期を見据えた戦略である一方、市民が着実にデジタル化推進による恩恵を受けることができるよう、現状をベースにした説明方針としたため、5年後の社会変化の姿などには触れずに現状からどうよくなっていくのかを基準に記載しました。	
34	第2回	盛岡では、それとは違うモデルにて、DXを通して新しいビジネスやベンチャーが出てくる環境を整えられると良いと思います	盛岡ならではの新産業やベンチャー創発を支援する環境整備をしてほしい	9	無			新規産業・ビジネス創出支援については、「盛岡市IT産業振興戦略」において推進することとしているため、本戦略には記載しないこととしました。	
35	第2回	民間からの提案や何かの盛り上がりみたいなのをどういう風に受け止めるのか。統一的な窓口を設けるなどといった施策もあり得るかと思いますので、その辺りの位置付けを伺いたい	デジタル活用や機運醸成に関する民間との連携をどう考えるか	10	無			事業者からの提案については、事務局が窓口となり受け付けたいと考えています。受けた提案については、WGにおいて精査し事業化について検討いたします。	

#	実施回	発言文（議事録まま ※同様のご指摘については一部事務局にて文言を編集しています	ご指摘の内容（事務局理解）	議事録 記録箇所	修正有無	記載頁	記載内容	記載無の経緯・理由	備考欄
36	第2回	デジタルが進んでいく時に、非デジタルな環境整備というものをうまく併せて行わないといけないのではないか、そうしないと結局は使いづらいのではないかと考えています。そうした非デジタルとして、デジタルを使うための環境整備との連携といった観点を伺いたい	デジタル活用を推進するにあたり、デジタル／非デジタル環境の整備についてどう考えるか	10	有	15	デジタル環境整備については、各種取組にて整備を進める方針です。一方の非デジタル環境についても、活動の方向性①（1）におけるデジタル格差解消に向けた主な取組等にて整備を進めていく方針です。		
37	第2回	デジタルを使ってもっと盛岡に愛着持てるような、例えば文化面とか教育面などで単に成績を上げてくというだけではなく、盛岡を知るとか、盛岡をもっと好きになるようなデジタルの使い方という観点も必要ではないか	盛岡に対する愛着形成の視点からどうデジタルを活用できるかという観点の必要性を考えてほしい	11	有	21	活動の方向性⑦にて、地域資源活用や観光対応といった盛岡（地域）の良さを深める指針や主な取組を記載しました。		
38	第3回前	「本戦略は、多くの関係者の協働により…」と明記してありますが、その下の図では「産・学・官」の図がありますので「本戦略は、多くの産学官関係者の協働…」と明記し、「関係者とは具体的に誰の事を指すのか」と言う部分を明確にするべきだと思います。		事前コメント	有	2	ご指摘の通り「企業や事業所、大学等教育機関及び行政をはじめとする多くの関係者」に修正しました。		
39	第3回前	P.20にて、⑥とは違うのですが、「デジタル産業の誘致・起業促進」を加えるべきかと思います。デジタル技術を持った人を呼ぶことは良いのですが、デジタル産業を誘致または起業を推進し、新たな雇用創出。そして既存の地場産業とコラボレーションをさせる事で強い企業を作るといった文言もあれば更に良いかと思います。		事前コメント	無			デジタル産業の誘致については、「盛岡市IT産業振興戦略」において推進することとしております。	
40	第3回前	先日、県立大学の先生がおっしゃられた「20代の女性の人口減少」のお話があったと思っていますが、これに対する分析が「魅力的な就職先がない」と言う事で片づけられていますが、それだけではないと思います。私はエンターテインメント不足（施設・インフラなどが使いづらい等）もあると考えております。いずれ「若い女性から見ても盛岡市は魅力的な街ではない」と感じられている結果です。 普通であれば他県の女性が岩手の大学に入学し、「盛岡らしさ」があれば、そのまま定着してもおかしくないはずなのに若い女性がどんどん外に出ていき、外から人が入ってきていないという部分の理由が分析されていない気がします。 こういった問題について「デジタル化」を通じて解決していく。例えば在宅ワークが可能な産業を増やし、しっかり稼げるようにする。そういった企業の育成もデジタル化によってスピードを速める。 こういった事が「盛岡らしさを残す」と言う事ではないかと考えます。		事前コメント	無			20代の女性の市外への転出は、委員ご指摘のとおり魅力的な仕事だけが理由ではなく、複合的な理由により本市が選ばていないものと認識しております。 転出事由の分析については、人口対策の一環として別に実施することを検討し、分析結果から、デジタル実装により解決できる課題については、積極的にアプローチをしていきたいと存じます。 いずれ、現在では詳細の調査・分析を実施していないことから、本戦略を推進する中で、課題として捉え対策を検討していきたいと存じます。	
41	第3回前	盛岡らしさ」と言う言葉が随所に使われていますが、その具体的な内容についてはあまり触れられていません。政治的な用語の意味合いで使われているならば、その意図は理解します。 ただし、「具体的な内容を出す必要性がなぜあるのか」と言うと、今後本計画の軌道修正を図る際に「何がズレたのか。何故ズレたのか」と言う検証が必要になるのではないのでしょうか？ その時に具体性に欠ける文言があれば軌道修正する時に作文が難しくなるのでは？と考えます。 リープフロッグ現象を見るに「使えないから教える」と言う選択肢は合理的ではなく、「それがあるから。それしかないから使っていく」と言うのがデジタル化推進のもっとも有効な手法であります。 つまり「デジタルを設置する」或いは「設定するという煩わしさを排除し、すぐにも使える環境整備をする事」が最も適切であると考えます。 「今あるものをデジタルに変化させる」のではなく、「これから必要なものをデジタル整備しておき、そこに人を誘導していく」ことが近代化を加速させるものです。少なくとも他県から来る人は盛岡以外の比較対象を持っている訳なので「ああ、盛岡ってこんなに便利な街なんだな」と思わせるという事はそう言う事なのだと思います。 よって私が思う「盛岡らしさ」とは、「今あるものだけに捉われず、デジタル化の推進計画を多くの関係者と一緒に作り出し、他の市町村にはない若者から見ても魅力的なオリジナルの行政システム」であると思います。		事前コメント	無			“盛岡らしさ”については、参考5にその定義を記載しております。 本戦略はデジタル化というツールを媒体として様々な視点におけるまちづくりを1つの戦略にまとめようとしているもので、委員ご指摘のとおり新たなもの生み出すことが、デジタル化を推進する観点では一番効果的と存じております。 しかしながら、デジタル化のメリットを享受しながらも、盛岡として長い歴史の中で培ってきた伝統や文化も保存しながら求められる部分については近代化することも一つ必要と考えており、様々な視点や場面を想定していることから、お示した案のようになっております。 デジタル化の手法やスピード感については、具体の事業毎に最適解を検討し実施していきたいと存じます。	
42	第3回前	デジタルデバйд対策についても記載願いたい。国でも文部科学省で、生涯学習の括りでデバйд対策予算を計上している。基礎自治体レベルで期待したいのは、持続可能なシステムでのデジタルデバйд対策。住民自らがお互いに教えあう環境を構築することも大事。高校生・大学生を巻き込むなど世代間交流の促進も。		事前コメント	有	15	活動の方向性①(1)の取組方針において記載しております。		
43	第3回前	下から12行目：“オフライン”行動-> これまでの人間の社会活動が“フェイスツーフェイス”行動や、“対面重視”行動だったので、こちらの表現が良いのではと思います。		事前コメント	有	1	対面行動へ修正しました。		

#	実施回	発言文（議事録ま ※同様のご指摘については一部事務局にて文言を編集しています	ご指摘の内容（事務局理解）	議事録 記録箇所	修正有無	記載頁	記載内容	記載無の経緯・理由	備考欄
44	第3回前	P.4にて、本戦略と他の４つの市の戦略・計画との関係性は理解出来ます。しかしながらこれらの４つの戦略・計画とどのように整合性を取っていくのが示されてないので、市全体として一体的に取組んでいくような説明があると良いのではと思われます。例えば、“庁内関係部署会議”にて全体の戦略・計画について整合性をとっていくとかが見えると良いのではと思います。		事前コメント	無			各計画等にそれぞれの計画等を推進するための、推進体制を組織しており、それぞれが関係する計画等との整合性を図っております。 他の計画等とのバランスにより本戦略に具体的に記載しないこととします。 なお、戦略の位置づけにおいて、“緊密な連携をとり効果的かつ効率的に推進”することとしており、推進にあたっては、委員ご指摘のとおり整合性を図りながら推進してまいります。	
45	第3回前	上から10行目：便利で快適な日常において、-> 便利で快適な日常生活においても、 の表現が良いのでは		事前コメント	有	8	ご指摘のとおり修正しました。		
46	第3回前	上から6行目：「市民の誰もがデジタルの恩恵を受け入れられる」 の表現が良いのでは		事前コメント	有	9	ご指摘のとおり修正しました。		
47	第3回前	下から6行目：利便性の向上-> 利便性の低下		事前コメント	有	9	“不便さ”に修正しました。		
48	第3回前	P.27にて、下図：もう少し綺麗な図に変えた方が良いと思います。		事前コメント	有	27	トリミング範囲を小さくし、図のサイズを大きくするなど画質向上に努めました。		
49	第3回前	上から5行目 具体例 地域におけるデジタル化サポート組織等の検討-> “検討”は消極的なので“見直し”や“再構築”等積極的な表現としたら良いかと思います。		事前コメント	有	15	“体制の整備”に修正しました。		
50	第3回前	P.22にて、デジタルデバイス等から取得したデータを活用した交通施策の提案場所-> 提案場所数		事前コメント	有	22	“交通施策を10件提案する”に修正しました。		
51	第3回前	・図体図が欲しいところ。視点３つのカテゴリーを維持したまま行動指針・取組方針まで整理されているが、やや重複感あり。例えば行動指針⑥（人・技術・知見）に（14）多様な人材確保に向けた支援があるが、その取組にはまちづくりに関するものが示されている。まちづくりは視点なのか、取組領域なのか、そのあたりもはっきりさせた方がよい。		事前コメント	有	20		参考 6 に活動の方向性ごとに整理した表を記載しました。	
52	第3回前	・図が現状・課題であることについて（順番に）違和感あり		事前コメント	無			戦略の将来像や、成果目標を決定するにあたっては、背景に本市の課題を記載しており、p12の5.現状はその詳細を示したものであるため、現状のままとします。	
53	第3回前	・図針の言葉が統一されていない（持続発展という動詞的ワードと環境という体言止めが並列されている		事前コメント	有	10、11	ご指摘のとおり修正しました。		
54	第3回前	基礎情報が足りない印象（例えば盛岡市都市インフラ施設の老朽化がどうなっているかなど）		事前コメント	有		盛岡市総合計画、および第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に記載がある課題について出展を明記いたします。		
55	第3回前	行動指針とKPIが連動していないところがある（一対一対応していない）		事前コメント	有		戦略目標の３つの視点それぞれにKPI指標を設定し、目標への進捗を管理することとしました。なお、活動目標に直結する目標値も一部設定することで、ミクロ、マクロの両面から本戦略の進捗を計ろうとするものです。		
56	第3回前	施策（取組）に抽象的な表現が多い、施策（取組）をどのように進めるのか具体化のイメージが湧きにくい、全国どこでも取組まれているものも多い（それ自体は否定しないが、盛岡オリジナルの言葉がもっとあってほしい）。		事前コメント	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。	
57	第3回前	オープンデータ、コード（ルールメイク）、マイナンバー連動型まちづくりなどデジタル社会資本を施策として盛り込めないか？ただこれは盛岡市DX計画の方か？		事前コメント	無			行政システムに関するものは、「盛岡市DX推進計画」において所管するものであるが、利用者がより使いやすい環境づくりは本戦略が所管する部分であることから、担当部と連携し推進してまいります。	
58	第3回前	一つでも良いので、他が真似できない盛岡市ならではのデジタルの取組が欲しい（市の名前が別になってもあまり変わらない戦略書ではもったいない）		事前コメント	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。	
59	第3回前	盛岡市ならではの概念（ワーディング）をもっと打ち出して欲しい。また、盛岡らしさとあわせてまちづくりに関する言及が欲しいところ。盛岡らしさで逃げないで欲しい。できればサブタイトルでも入れて欲しい （例） “市民・伝統文化に立脚した自立経済圏の実現” “市民の豊かさと経済の拠点（にぎわい）をつなぐデジタルまちづくり”など		事前コメント	有	10	概念を表す戦略コンセプトとして「デジタルの力で盛岡の良さを紡いで伸ばす ～誇れる地元をみんなで積み重ねて育てていく～」を記載しております。		
60	第3回前	P.9にて、市民は、どの市民を想定するのか、来街者も含まれるのか？企業市民は？例えば、周辺都市圏の市民を含めてはどうか？		事前コメント	無			市民は盛岡市在住者を想定しております。企業については、地域の経済に分類しており、来訪者については関係人口の視点から視点３において対象としているものです。	

#	実施回	発言文（議事録まま ※同様のご指摘については一部事務局にて文言を編集しています	ご指摘の内容（事務局理解）	議事録 記録箇所	修正有無	記載頁	記載内容	記載無の経緯・理由	備考欄
61	第3回前	P19にて、域外・海外から人・資金・投資を惹きつける魅力あるまちづくり、といった表現も欲しい（PR、メタバースなど新たなデジタルテクノロジーを駆使した書き方ならなお良い）		事前コメント	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。 ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。	
62	第3回前	P.8にて、盛岡らしさ六カ条に含まれているが、北東北の拠点としての盛岡の強みを加えることはできないか → 県庁所在都市として形成させてきた産業のバランスを維持・拡大すること、そのなかで国内外に勝負できる売り物を産業として構築すること		事前コメント	無			ご指摘のとおり、“盛岡らしさ”に北東北の拠点としての概念があることから、重複での表現を避けるため、現状のとおりとします。	
63	第3回前	P9にて、まちづくりということなので、生活空間、中心市街地、郊外（都市圏内外）、物流拠点といったエリア単位のイメージが描けないか		事前コメント	無			全てのエリア単位を対象としており、戦略を推進する中で、対象を絞って効果的なデジタル化推進してまいります。	
64	第3回前	P.9にて、デジタル技術を活用して賑わいを高める取組が有効である		事前コメント	無			戦略を推進する中で、ご指摘の取組を進めてまいります。	
65	第3回前	P9にて、デジタルツインなどの技術を使って空間をバーチャルで再生しながら、季節の変化に強く、多世代にわたって盛岡の文化・伝統を楽しめる都市空間のあり方を模索するプロジェクトを立ち上げることなど、盛岡らしい取組も盛り込んで欲しい。		事前コメント	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。 ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。	
66	第3回前	P10にて、行動指針は、市民が行う印象があるが、地域の企業や産業、学術研究機関なども対象になるべきでは。これは市民のカテゴリーで語るのが、地域経済のカテゴリーで語るのが		事前コメント	無			対象は市民のみならず、企業、行政も含まれるものです。	
67	第3回前	視点1「市民の生活について」。誰にでもやさしいデジタル化（対象）、生涯にわたって幸せをもたらすデジタル化（時間軸）のはよいが、生活に根差したデジタル化は地域経済に近い概念であり市民から遠い印象を受けた。むしろ盛岡のどの地区でも手に入れられるデジタル化（地域）を加えた方がよいのではないか		事前コメント	有	15	4.活動の方向性に地域コミュニティの観点を記載しました。		
68	第3回前	まちづくり・文化については、良質な生活環境の整備、中心市街地の活性化（ウーカブルシティ）、脱炭素・循環型空間を構築するなどの視点は考えられないか？		事前コメント	有	16、21	生活環境については、戦略目標の視点1に記載しており、脱炭素・循環型空間の構築は、活動の方向性②(7)の取組方針のその概念を記載しました。		本戦略にてデジタル化推進を対象とする地域は本市全域を想定しているため、中心市街地に特化した記述は記載しないこととします。
69	第3回前	安全安心なまちづくりは、気温の低さ（水道管凍結防止）、雪（オールラウンド）移動に対応した供給システム、移動システムなど盛岡らしい具体的な取組を		事前コメント	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。 ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。	
70	第3回前	物流×デジタルデータ×新産業創造など、今後の社会課題（トラックドライバーの労働時間規制）に対応し、盛岡市の特徴を活かせる象徴的な取組が欲しい		事前コメント	無			当初、各取組方針に基づき、想定される事業案を記載していたが、現時点では事業内容を精査できないことから具体的な事業の掲載は行わずWGにおいて検討することとします。 ただし、今後WGの検討時の参考として、各取組方針の説明文に【主な取組】の例を簡単に記載しております。	
71	第3回前	第4章「推進体制」に関して、今後の戦略推進（チェック）を、「外部機関（まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議）と庁内のメンバーで行うことになっているが、今回戦略策定に加わった方々（有識者）も意見（助言）できる場を作って欲しい		事前コメント	無			まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員に本戦略が関係する領域に精通する方を委嘱したいと考えております。 具体の委員の委嘱については、今後の事務の中で検討してまいります。	